

平成 20 年度事業報告書
平成 20 年度収支決算書

目 次

まえがき	-
1. 開発プロジェクト	1-8
(1) ODA 連携プロジェクト	2-3
(2) 国連・国際機関連携プロジェクト	3-5
(3) 企業・助成団体・市民との協力プロジェクト	5-8
2. 広報・アドボカシー活動・国際協力推進キャンペーン	8-16
(1) アドボカシー活動	8-14
(2) 広報・出版活動	14-15
(3) 資金調達活動	15
(4) 国際協力推進キャンペーン	15
(5) 物資援助	15-16
3. 人材養成・専門家派遣・受入れ	16-18
(1) 集団研修(世界各国対象)	16
(2) 地域別研修	17
(3) 各国別研修	17-18
(4) 個別研修	18
(5) インターンシップ受入れ	18
(6) 専門家の受入れ	18
(7) 専門家派遣	18
4. メディア・コミュニケーションズ	18-20
(1) デジプラン(DigiPlan)アーカイブ拡充	18-19
(2) デジプラン(DigiPlan)ネットワーク拡充	19
(3) デジプラン(DigiPlan)コンテンツ制作	19
(4) アプロダクション(APPRODUCTION)	19-20
(5) メディア・プロモーション	20
5. 調査・研究	20
6. タスクフォース	21
(1) 公益法人制度改革対応	21
(2) 40周年記念事業	21
(3) 母の日イベント	21
資料編	22-36
庶務事項	37
財務諸表	38-43
公認会計士による監査報告書	44
監事による監査報告書	45

ま え が き

． 「危機」からの脱却をめざして

2008 年は、前半は原油高騰によって引き起こされたエネルギー危機と、それを発端に深刻化した食糧危機、そして後半は金融・財政危機と、連続して大きな危機が到来した年であった。米国に端を発した金融・経済危機は世界中を席卷し、多くの国が出口の見えない不況に喘ぎつつ年を越した。

また、自然災害も猛威を振るった。2008 年 5 月のサイクロン・ナルギスによってミャンマーにおける死者・行方不明者は 13 万 8000 人にのぼり、同じく 5 月に発生した中国の四川大地震は死者・行方不明者 8 万 5000 人以上を出した。ジョイセフとしてもミャンマー・中国の両国に対し復興支援を行った。しかし、被災地ではいまだにその傷跡は癒えていない。

これらの重苦しい状況にあつての朗報は、2009 年 1 月 20 日米国にオバマ大統領が率いる民主党政権が誕生したことである。8 年にわたるブッシュ政権に対するリプロダクティブ・ヘルス/ライツ(RH/R)を守る闘いが終了し、2015 年を目指して RH/R を全力を挙げて推進する環境が整った。

． NGO 間の連携促進と地球規模課題としての保健

2008 年は日本の国際協力に携わる市民社会のアドボカシー活動にとって千載一遇のチャンス年であった。日本が 5 年に 1 度、国連・国際機関の協力を得て主催するアフリカ開発会議(TICAD)と 8 年に 1 度巡ってくる主要国首脳会議(G8 サミット)がそれぞれ横浜と北海道洞爺湖において開催された。それにあわせ 2008 年 G8 サミット NGO フォーラムが結成され、141 の NGO が集結し、この 2 大イベントに向けて、積極的なアドボカシー活動を行った。ジョイセフは国際保健に関するワーキンググループの事務局役を務めながら、その一方で最大数の NGO が参加した「貧困・開発」ユニットのリーダーを務めた。さらに、一般市民に対する国際保健キャンペーン「me too キャンペーン」を、思いを同じくする他の NGO とともに推進したり、サミットと同時並行して札幌で開催された市民サミットにおいてホワイトリボンのアドボカシー活動を積極的に推進したりするなど、もてる限りの知見と人材を G8 サミットに向けてのアドボカシーとキャンペーンに投入した。

その結果、G8 サミットにおいて保健が開発・アフリカの主要議題として取り上げられ、G8 サミット史上初めて母子保健に焦点が当てられた。福田康夫首相(当時)は TICAD の開会式の演説においてアフリカの人口問題にふれ、それは「リプロダクティブ・ヘルスの問題でもある」と述べ、日本の歴代の首相で初めて「リプロダクティブ・ヘルス」という言葉を正式な演説で引用した。

TICAD IV、G8 サミットに向けての一連の活動を通じ、ジョイセフのアドボカシー活動に対する政府・NGO の認知度・信頼度が向上し、保健分野におけるアドボカシー NGO としての地位を確立できた。

． 北海道洞爺湖サミットの成果とホワイトリボンキャンペーン

北海道洞爺湖サミットにおいて、「国際保健に関する洞爺湖行動指針」が成果文書としてまとめられた意義は大きい。これにより 2010 年までは G8 サミットにおいて毎年 G8 国の保健分野における貢献がレビューされることになり、イタリアからカナダへと国際保健が G8 サミットのアジェンダとして引き継がれる道筋ができた。また、この行動指針が出来上がるプロセスに保健分野 NGO の十分な参加が保障されていたことは政府と NGO との協働関係をさらに進展させる結果につながった。北海道洞爺湖サミットに対するメディアの反応は残念ながらあまり芳しくなかったが、国際保健に関する限り国際的評価は高いものであった。

また、サミットに参加するために来日した、ホワイトリボン・アライアンスのパトロンでもある英国サラ・ブラウン首相夫人の提案により、駐日英国大使の主催で、ジョイセフの全面協力のもと、途上国の妊産婦の健康改善のための茶会が英国大使館で開催された。ブラウン夫人と福田貴代子首相夫人(当時)の講演を中心に、多くの関係者、メディアが参加し、日本におけるホワイトリボン運動の進展に大きな弾みがついた。

．プライマリーヘルスケアの復活

2008 年 10 月、カザフスタンのアルマアタ(現・アルマティ)において WHO(世界保健機関)は、プライマリーヘルスケア(PHC)アプローチの復活を謳った世界保健報告書を発表した。30 年前、同じ場所で「すべての人に健康を！」というビジョンのもと、PHC 戦略が提唱されて以来、多くの国で PHC が推進されてきた。しかし、健康の権利は人権の一部として謳われた世界人権宣言から 60 年たった現在、世界を見渡すと、政府の保健支出は国民 1 人当たり 20 米ドルから 6000 米ドルと、国によって大きな隔たりがあり、保健サービスを受けられる人たちと受けられない人たちとの間で、平均寿命に 40 歳以上の差がつき、格差はさらに拡大した。

WHO は、現在実施されている疾病予防を強化することにより、治療に必要とされているコストの最大 70% は節約可能と推計している。PHC の復活は、予防医学活動の強化につながる。人間的家族計画、インテグレーション・アプローチ、リプロダクティブ・ヘルスとジョイセフが培ってきた経験を大いに役立てることのできる環境が整い始めた年となった。

．ジョイセフ創設 40 周年

2008 年 4 月 22 日、ジョイセフは設立 40 周年を迎えた。40 周年を迎えるにあたり、職員全員が新たな決意で次の 10 年に向けての新しい一歩を踏み出した。創設者、故國井長次郎が基本的な考え方とした「人間的家族計画」や、一人ひとりの視点を大切に、急速に変化する環境に合わせる努力を行う。今までもそうであったように、ジョイセフのスタッフでいることが誇りとなるように、今後とも真摯に活動を行っていく所存である。

このような状況にあって、ジョイセフは海外開発プロジェクト、広報・アドボカシー事業、国際協力推進キャンペーン、人材養成事業などを、ほぼ予定通り実施するこ

とができた。

以下、平成 20 年度の活動報告を行う。

事業報告

平成 20 年度は、日本政府、国際協力機構(JICA)、国連人口基金(UNFPA)、国際家族計画連盟(IPPF)、ユニセフ、世界銀行、パッカード財団、ヒューレット財団、保健会館グループ等の国内外の関連機関/団体の支援協力を得て、以下の事業が実施された。

1. 開発プロジェクト

アジア、アフリカ、中南米地域の開発途上国において、国際人口開発会議(ICPD)の行動計画およびミレニアム開発目標(MDGs)達成に貢献すべく、各国、または地域レベルで、RH 推進のための様々なプロジェクトを実施または支援した。

日本の戦後の母子保健・家族計画分野の経験と、ジョイセフの過去 40 年 31 カ国にわたる海外事業実施の経験や成功事例を基に、地域住民のイニシアティブによって RH が向上するように支援を行った。地域住民のイニシアティブを実現するためには、住民一人ひとりが自らの健康を意識し行動するようになるだけでなく、その行動をサポートするような社会的環境の整備も必要となる。ジョイセフは、これまで培ってきた情報コミュニケーション技術を活用し、個人の行動変容を促すコミュニケーション(BCC: Behavior Change Communication)活動のみならず、社会環境整備のためのアドボカシー活動も推進した。また、日本の経験を活かし、地域保健活動推進のための地域組織の強化も行った。

国レベルでは、アジア(アフガニスタン、インドネシア、中国、ネパール、ベトナム、ミャンマー、モンゴル、ラオス)、アフリカ(ガーナ、ザンビア、タンザニア)、中南米(ニカラグア)の 12 カ国での開発プロジェクトの実施および支援を行った。UNFPA や IPPF からの資金、日本の ODA、財団助成金、ユニセフ、世界銀行、企業や一般の民間支援等、様々な資金ソースの開拓や導入を試みた。また、国内でのキャンペーン活動、マスコミや国内支援組織のスタディツアー、政府や国会議員へのアドボカシー等の活動と連携し、プロジェクト実施によって得た経験を他のジョイセフの活動にも活用した。

平成 16 年度から JICA の委託を受け開始したミャンマーの地域展開型 RH プロジェクトをはじめとし、平成 17 年度開始の中国貴州省貧困対策プロジェクト、ニカラグアの思春期 RH 強化プロジェクト、さらに平成 18 年度にはベトナムの RH ケア広域展開アプローチプロジェクトなど、ODA 連携の技術協力プロジェクトも本格的に稼動した。

海外プロジェクトグループとメディア・コミュニケーショングループは、行動変容を促すコミュニケーション(BCC: Behavior Change Communication)分野の技術移転を目的とした、コミュニケーション・エキスパート・ユニット(J_CEU)を結成し、UNFPA やユニセフのカントリープログラムやアジア太平洋地域プログラムの下、コンサルタントとして活動を開始した。また、日本の開発分野の専門家を対象とした FAS ID(国際開発高等教育機構)主催のセミナーで講師を務めるなど、比較優位性を持つ技術は国内外で関心を集めている。

さらに、草の根の人々や企業の支援によって、アフガニスタン、インドネシア、ベトナム、モンゴル、ザンビア、タンザニアで現地 NGO と連携しつつ RH を中心とした保健分野の開発・復興支援を継続して行った。

上記の様々な活動のため、支援国のカウンターパート機関に対し、必要な技術・資金・資

機材を提供するとともに、人材養成のための各種研修事業の実施、運営、モニタリングや技術指導のためにジョイセフの職員ならびに専門家の派遣を行った。また、開発プロジェクトの経験を国際会議などの場で発表した。(ジョイセフ開発プロジェクト一覧 P22 参照)

(1)ODA 連携プロジェクト

日本政府外務省、国際協力機構(JICA)、国際協力銀行(JBIC)は、ODA と NGO の連携協力の強化および国民参加型 ODA を積極的に推進している。

発足以来一貫して実施してきたジョイセフの開発途上諸国の草の根の住民一人ひとりの健康と幸せを願う住民参加型のプロジェクトが注目され、高い評価を得ている。最近では、ODA 連携プロジェクトをはじめとし、国際機関、政府、NGO 間の各種研究会、委員会等に専門機関として提言・発表、プロジェクト等の形成に助言を行う機会が増えている。

本年度も下記プロジェクトの実施をはじめ、各種懇談会、研究会、委員会での継続的な連携活動を通じて ODA のさらなる効率的・効果的实施に協力した。

(イ)中国貴州省貧困対策プロジェクト(JICA 業務委託・技術協力プロジェクト)(継続)

家庭保健、生計能力強化、村民の自発的な活動組織の形成と能力向上を主な成果とする参加型の総合貧困対策モデルの確立を目的とした「貴州省道真県、雷山県住民参加型総合貧困対策モデルプロジェクト」(2006 年 1 月 - 2009 年 3 月)の 2008 年度は、日本人専門家派遣、生計向上、生活改善、寄生虫予防・家庭保健、広報教育教材制作などの研修実施、プロジェクト実施の経験を総括しモデル実施マニュアルの作成、そしてプロジェクト経験普及ワークショップなどを開催した。11 月には日中合同終了時評価活動が実施され、プロジェクトの成果目標に整合した数々の成果とインパクトが高く評価された。一方、2008 年 2 月の大規模な冰雪災害や 5 月の四川省大地震がプロジェクト進捗に影響を及ぼしたため、村民組織活動の強化やマニュアルの活用、そしてモデルの普及に取り組むためにプロジェクト期間を 1 年延長し、2010 年 3 月まで継続実施することが決定された。

(ロ)ニカラグア国思春期 RH 強化プロジェクト(JICA 業務委託・技術協力プロジェクト)(継続)

本プロジェクト(2005 年 11 月 - 2009 年 10 月 : 4 カ年)は、2008 年度は、前年度に実施された中間評価の提言を踏まえて、保健センターでのユース・フレンドリー・サービス(YFS)の強化を図ると共に、若者・地域の主体的参加を促しながら思春期クラブを拠点とした思春期リプロダクティブ・ヘルス (ARH) 促進のためのピア活動を強化・継続した。また、昨年度に引き続き、ARH 促進のための若者のエンパワーメント(能力強化)を支援する環境づくりを目的とした研修を保健行政担当者を招いて実施した。ARH マネジメント強化分野ではモニタリング・システムの強化を支援した。最終年度(2009 年度)の評価に向けて、現地コンサルタントによる終了時アセスメント調査の準備作業を支援した。

(ハ)ミャンマー国地域展開型 RH プロジェクト(Healthy Mother Project)(JICA 民間提案型技術協力プロジェクト : PROTECO)(継続)

本プロジェクト(2005 年 2 月 - 2010 年 1 月 : 5 カ年)は、地域住民の RH 向上と「地域展開型 RH」のモデルアプローチを確立し、ミャンマー国の RH プログラムへの裨益・拡大を図ることを目指している。

2008 年度は、これまでに養成・再研修した助産師・補助助産師・母子保健推進員のさらなる能力向上を目指し、助産師対象の助産技術再研修、IEC/BCC 教材を活用した健康教育の促進、母子保健推進員の再研修に加え、補助助産師および母子保健推進員の連携を強化・維持・監督するため助産師を中心とした管理能力強化を行った。同時に地域で母子保健推進の

活動を側面から支える地域支援およびモニタリング体制構築への取り組みを継続するとともに、依然ニーズの高い保健施設改修・基礎的な医療器材の供与を行った。また、2009 年度(最終年度)の「地域展開型 RH」モデルアプローチ確立に向けて、マニュアルなど関連資料の整備を進めた。

(二)ベトナム国 RH ケア広域展開アプローチプロジェクト(JICA 業務委託・技術協力プロジェクト)(継続)

本プロジェクト(2006 年 10 月 - 2009 年 10 月 : 3 カ年)では、ゲアン省 RH プロジェクト・フェーズ (2005 年 8 月終了)の経験とノウハウをハナム省、ニンビン省、タインホア省、ハティン省に普及するため、4 省の保健セクターや女性連合の研修責任者・担当者等を対象とした指導者研修をゲアン省で開催し、コミュニケーションヘルスセンター(CHC)スタッフ再教育の運営管理、支援のモニタリングの実施方法、クライアントフレンドリーサービス(CFS)の推進ノウハウ、IEC/BCC 活動の実践手法等を伝えた。その後、各省で郡レベル、コミュニケーションレベルの保健スタッフ、女性連合に対しての研修を行い、また、広く地域住民に RH 知識を普及し男性の参加を促すための大規模セミナー等を実施した。カウンターパートに対する本邦研修もジョイセフが全面的に受入れ、日本の草の根 RH 推進の経験、地区組織・行政等の役割などを研修した。

(2)国連・国際機関連携プロジェクト

2008 年は、国連機関、特に UNFPA のプロジェクトへの関わりが大きく変わる節目の年となった。UNFPA の組織改革に伴い、ジョイセフに期待される役割が、プロジェクトの運営・実施から BCC 分野の専門機関としての技術移転に切り替わった。国際会議への参加や国レベルでの国連・国際機関に対する専門性や技術協力プログラムの紹介を重ね、年の後半にはコミュニケーション分野のコンサルタント業務を複数の組織から受注するに至った。

IPPF との連携では、2007 年に開始した 3 カ年計画(2007 - 2009 年)に基づき、国レベルの活動として、中国、ガーナにおける地域に根ざした CoRH 推進のためのプロジェクトを継続実施した。

地域事業や国レベルの活動の推進にあっては、UNFPA と IPPF とのパートナーシップ・連携を強化し、また、海外での開発プロジェクトの成果や事例をもとに、国内の広報アドボカシー・国際協力推進キャンペーン活動との連携も推進した。

(イ)UNFPA の委託による事業

グローバル事業

昨年の組織改変に伴い各地域事務所に配属されていた BCC 専門家のポストが廃止され、UNFPA 組織内に BCC の専門家がいなくなったために外部の専門家の技術協力が急務となっている。これに応じてジョイセフは従来に増して BCC 分野での専門団体としての提言活動を行い、またグローバルなレベルで UNFPA に貢献する可能性を探った。

地域事業

UNFPA アジア太平洋地域事業の下、ジョイセフの専門技術や経験を活用しながら、UNFPA 各国事務所や BCC 分野の南々協力の拠点となり得る組織に対し、プログラム・コミュニケーション分野の能力強化を行うことになった。2008 年度はアジア太平洋地域内の能力強化のニーズ調査を行うための準備作業を行った。

カントリープログラム

a) ミャンマー

2008 年度は UNFPA の第 2 期のカントリープログラム(2007 - 2010 年)が一年遅れで承認され、執行を委託されている「広報教育プロジェクト」「若者の RH プロジェクト」の活動がようやく開始された。プロジェクトのカウンターパートは引き続き保健省・健康教育推進本部で、RH 改善のための BCC 活動推進を目的とし、ミャンマーにおける 112 のタウンシップを対象として活動した。活動の内容は、BCC に関するトレーニングと教材制作、34 のタウンシップにおける集中的な地域展開型の BCC 活動の実施等である。2008 年には、新たに 7 つのタウンシップが活動に加わり、プロジェクト期間中に養成されたボランティアは若者が約 1,500 人、地域展開ボランティアは約 37,000 人になった。彼らは、村での教育活動や保健施設への照会などを行いながら、地域で活発に活躍している。

b) ラオス

2008 年度は新規に BCC 戦略・活動強化のための技術移転の依頼を UNFPA より受け、UNFPA カントリープログラムの下、RH に関する既存教材のアーカイブ(データベース)作りと、新規教材企画のための BCC コミュニケーション戦略作りを行った。

c) ネパール

UNFPA カントリープログラムの下、国内の BCC の拠点である保健人口省国家教育情報コミュニケーションセンターを強化するためのコンサルタンシー業務を受注した。2008 年はその第一歩として、論理的なコミュニケーション戦略作りのための技術移転、コミュニケーション戦略に基づくツール制作概要書の作成およびニーズ把握のための状況調査等を行った。低コスト・先住民など、これまで社会的に疎外されてきたグループの人々への対応や、ネパール国内で罹患率の高い子宮脱など、政府の新しいテーマへの取り組みに対する技術協力が始動した。

(ロ) IPPF との連携

中国

中国計画生育協会と協力し、2007 年から貴州省で RH・家庭保健・生活改善インテグレーション・プロジェクト(IP)を実施している。2008 年度は、三穂県のミャオ族の 2 村をプロジェクトモデル村として、寄生虫予防、家庭保健、回転資金による生産活動の向上、農業技術、計画生育協会会員などの各種の研修を実施し、寄生虫予防、住民健診、RH・家庭保健、生活改善活動を推進した。12 月には、日本の報道機関 4 社の記者が、三穂県、雷山県の貧困対策プロジェクト地区を視察した。視察に関連する記事は、東京新聞と時事通信社から配信された。

ガーナ

ガーナ家族計画協会(PPAG)を協力機関とし、2004 年度からアシャンティ州アハフォ・アノ・サウス郡の保健行政と連携し、RH 推進活動を展開している。プロジェクト郡から特に SRH の情報やサービスの行き届かない農村地域である 15 村を対象とし、RH と HIV/エイズ対策との統合を目指すとともに、栄養改善や寄生虫予防など他の保健ニーズへの対応も行っている。2008 年は、家庭訪問等を通して家族計画の普及強化および劇や紙芝居などの教材を活用し HIV/エイズの予防啓発活動を行った。また、妊産婦検診時の HIV 検査が増加し、啓発活動から検査へのリンクの強化を行った。

(ハ) ユニセフとの連携

ユニセフ・ミャンマー事務所よりエイズの母子感染予防(Prevention of Mother to Child

Transmission: PMCT)プログラムの一環として、男性参加、妊産婦健診、エイズ検査を促進するためのコミュニケーション・アクションプラン作りと紙芝居制作を依頼され、活動が開始された。2008 年度中はコミュニケーション戦略の内容確認や紙芝居の制作概要書の制作が実施された。

(二)世界銀行との連携

昨年実施した若者のアドボカシー(政策提言)能力強化を目的とした映像メディアコンテンツ作りに関する能力強化研修内容を、より広く共有するために、英文による映像製作技術マニュアルを作成した。また世界銀行の複数のスキームに対してプロジェクトの立ち上げに向けた準備や働きかけを行った。

(3)企業・助成団体との連携

市民社会とのパートナーシップ推進の下、日本の ODA、国連・国際機関に加えて、企業の社会貢献事業、助成団体などとの連携を図った。

(イ)日本郵船グループ

再生自転車、使用済みランドセルなどの物資の海外寄贈に伴い、日本郵船グループの協力を得て、中古コンテナ 14 本の寄贈および 3 カ国に対する無償海上輸送の協力を得た。これらの支援物資は、途上国の母子保健活動を推進するために寄贈された。

(ロ)㈱クラレ

2004 年より使用済みのランドセルをアフガニスタンとモンゴルに贈る「ランドセルは海を越えて」および「思い出のランドセル募金」キャンペーンを、ランドセル素材メーカーの㈱クラレおよび 日本かばん協会ランドセル工業会と連携して実施している。本年度はアフガン向けに 10,127 個とモンゴル向けに 1,414 個の合計 11,541 個のランドセル(一部新品を含む)を寄贈した。日本での㈱クラレの協力の様子やアフガニスタンの子どもたちがランドセルを受け取る様子がドキュメンタリー番組として制作され、BS や日本航空機内などで放映された。小中学校ばかりでなく、ロータリークラブ、ライオンズクラブ、社会福祉協議会、PTA、企業など幅広い支援団体より協力を得ることが出来た。(ランドセル寄贈実績 P30)

(ハ)㈱ヤクルト本社

㈱ヤクルトは創立 70 周年記念の社会貢献活動として 2005 年よりインドネシア、ウェスト・ヌサ・テンガラ州東ロンボク県ジェロワル郡の母子保健プロジェクトを支援している。プロジェクト地区は、インドネシア国内でも妊産婦死亡率、乳幼児死亡率の高い地域である。(プロジェクトの詳細については(4)(イ)を参照)

また、これとは別に、売り上げの一部を「母と子の健康と命を守る」ホワイトリボン運動に寄付をする社会貢献型の自動販売機の事業も行っている。2008 年度までに、合計 21 台のホワイトリボン自販機がヤクルトホールなどの施設に設置されている。

(ニ)㈱三菱東京 UFJ 銀行および三菱東京 UFJ 銀行社会貢献基金

㈱三菱東京 UFJ 銀行および三菱東京 UFJ 銀行社会貢献基金は社会貢献活動の一環として、2007 年より社員から定期的な寄付金を募り、その寄付金を関連する団体に寄付している。ジョイセフは女性支援というカテゴリーで支援を受け、その寄付金を妊産婦死亡率と乳児死亡率が高いアフガニスタン支援活動に活用している。

(ホ)㈱伊藤園

自販機の清涼飲料の売上の一部を「母と子の健康と命を守る」ホワイトリボン運動に寄付

するキャンペーンで協力を得た。2008 年度まで 15 台のジョイセフ・ホワイトリボン自販機による協力があった。自販機に貼られた「1 本のドリンクから世界の母と子の命を守る」のメッセージを通して活動の認知度を上げる相乗効果があった。

(ヘ)ベルマーク教育助成財団

ベルマーク教育助成財団には全国 28,450 校の保育園・幼稚園・小中高校・大学・公民館と 930 万世帯が参加している。1997 年から始まった開発途上国に支援をするベルマーク教育助成財団・友愛援助事業に、ジョイセフは第 1 回目から参加をしている。この友愛援助事業に 2008 年度は、2007 年度に引き続きスマトラ沖大地震・大津波で被災したバンダアチェの小学生の支援事業を実施した。またミャンマー・サイクロン被災地および中国四川地震の被災地への支援活動も行った。(プロジェクトの詳細については(4)(イ)を参照)

(ト)真如苑・ISC

真如苑は国内外の社会的弱者を支援する社会貢献事業を行っている。本年度はアフガニスタン母子保健プロジェクトに対し資金協力を得た。また、同団体の国際協力組織である ISC よりベトナム・バクニン省での母子保健プロジェクトに継続的な資金協力を得た。

(チ)日本救援衣料センター

日本救援衣料センターの協力を得て、ザンビア、アフガニスタンに救援衣料を寄贈した。また、ミャンマーのサイクロン被災者支援、中国の四川大地震被災者支援のためにも救援衣料を寄贈した。

(リ)電力総連

電力総連(全国電力関連産業労働組合総連合)は組合員のカンパによる資金で NGO の国際協力活動を支援している。ジョイセフのベトナム母子保健活動も電力総連の支援を受けて、マイクロクレジット(小規模無担保融資)と母子保健を統合した地域に根ざした持続的活動を行った。

(ヌ)ネットオフ(株)

ネットオフ(株)のスマイルエコ・プログラムに参加。古本や CD 等を売却する際に、50 円がネットオフ(株)から NPO/NGO 団体に寄付される。ジョイセフは寄付先の NGO 団体のひとつとしてこのプログラムに参加した。

(ル)㈱ロツテ

㈱ロツテは昨年に続き 2008 年度もガーナミルクおよびガーナブラックチョコレートの売上の一部を寄付して、ガーナのお母さんと赤ちゃんの命を救う再生自転車の寄贈に協力した。2 月下旬よりロツテのロングセラーブランドであるガーナミルクチョコレートおよびガーナブラックチョコレートの包装裏面でホワイトリボン運動が紹介された。なお、これらのチョコレートは 2009 年 5 月中旬頃まで販売され、推定 1500 万枚の売上げが見込まれる。

(4)市民協力プロジェクト

ジョイセフは一般市民や企業の協力を得て市民社会参加型のプロジェクトを実施した。(ジョイセフ開発プロジェクト一覧 P22 参照)

(イ)アフガニスタン

アフガン医療連合(UMCA)と共同で、ナンガハール州の母と子の保健分野の改善を図る母子保健プロジェクトを実施。2008 年度は母子保健クリニックの運営、伝統的助産師のトレー

ニング、寄生虫予防、母子の栄養改善事業を実施した。栄養改善のプログラムでは、果物の苗木を配付し、モデル菜園で果樹栽培を推進し、住民の持続的な経済活動につながるようプロジェクトを運営した。

(ロ)インドネシア

インドネシアではインドネシア家族計画協会 (IPPA) と共同で 2 つの地域でプロジェクトを実施した。

ウェスト・ヌサ・テンガラ州東ロンボク県

同州の妊産婦死亡率はインドネシア国内 33 州の内、2 番目に高い。中でも、ウェスト・ヌサ・テンガラ州東ロンボク県ジェロワル郡には継続的な国際的支援がほとんど届いておらず、妊産婦と乳幼児の罹患率と死亡率は非常に高かった。そのため同地区で、母と子の健康と命を守るプロジェクトを 2006 年度より行ってきた。活動目的は 1) 栄養不良の子どもや健康不良の妊婦に対する医療施設へのアクセスの拡大と健康の向上、2) 保健医療施設の設備やサービスの拡充、3) 貧困削減の 3 点。2008 年度は収入創出活動のためのマイクロクレジット活動、栄養改善プログラム、成人や幼児に対する識字教室などを実施した。

スマトラ沖地震津波被災者救援プロジェクト

2005 年 12 月に発生した地震・津波により被災したインドネシア・バンドアチェの地域復旧を目指し、母子保健や災害孤児や女性たちの生活などの再建を支援している。2008 年度は、地域の婦人会に対するマイクロクレジット活動、また災害孤児など経済的に困窮している小学生から高校生までを対象に奨学金を提供し、学業の継続を支援した。

(ハ)ベトナム

ISC の協力により、ベトナム家族計画協会 (VINAFPA) と協力し、バクニン省で家族計画普及員ボランティアによる地域巡回活動とマイクロクレジット収入創出活動が連動した母子保健事業を展開した。家族計画普及員ボランティアが研修を受け、ザビン郡とイエンフォン郡の各コミュニティで、母子保健、家族計画、寄生虫予防に関する啓発活動と連動したサービスの提供を行った。また、家族計画普及員ボランティアを対象にマイクロクレジットを提供し、小規模の経済活動を支援した結果、家族計画普及員ボランティアの士気が高まり、地域住民の支援を得て、草の根レベルの母子保健プロジェクトの自立的発展性と持続性の可能性が高まった。

(ニ)モンゴル

モンゴル母子福祉協会 (MFWA) と協力し、アルカンガイ州カサート郡で「カサート・ジャパン・ファミリープロジェクト」という貧困削減、家族計画・母子保健改善、寄生虫予防、収入創出活動、マイクロクレジットを統合した事業を実施した。ミシンを活用した職業訓練やオート(カラス麦)を栽培して家畜の飼料として販売し、その収入を貧困削減や母子保健の改善に活用をしている。プロジェクトは地域の指導者の全面的支援を受けた。

(ホ)ザンビア

ザンビア家族計画協会 (PPAZ) と共同で、コッパーベルト州マサイティ郡およびムポングウェ郡で母子保健プロジェクトを展開した。ヘルスセンターが地理的に遠いため、保健医療サービスが受けられない地域で、クラブと呼ばれる村人の自主的な地区組織兼ヘルスポストを中心に家族計画、妊産婦保健、乳幼児保健の活動を推進した。コミュニティでプロジェクトを実施する主体である家族計画普及員ボランティア、伝統的助産師、ピアエデュケーターのトレーニングを実施した。

(ハ)タンザニア

タンザニア家族計画協会(UMATI)と共同で、母と子の健康と命を守るホワイトリボン運動の一環として、タンザニアのキリマンジャロ州、モロゴロ州、ムワンザ州、マラ州、シンギダ州で母子保健プロジェクトを実施した。再生自転車と学用品は現地で活動する保健推進ボランティアたちに配布され、草の根地域保健活動の機動力が高まった。

2. 広報・アドボカシー活動・国際協力推進キャンペーン**(1)アドボカシー活動**

本年度も人口問題、RH 分野での幅広い広報・アドボカシー活動を積極的に展開した。あわせて全国各地で開催された人口、開発、ジェンダー等の研究会、講演会、セミナー、ワークショップ等へ役職員を派遣し、開発途上国の現状やジョイセフの活動を報告した。

(イ)第 4 回アフリカ開発会議(TICAD)と北海道洞爺湖サミット(G8)サミット関連アドボカシー

保健医療ワーキンググループとしてのアドボカシー

ジョイセフは、2008 年 G8 サミット NGO フォーラム**の貧困開発ユニット保健医療ワーキンググループ(HWG; 15 団体で構成)の事務局を務め、MDG5(妊産婦の健康の改善)を含む保健 MDGs***の達成とそれを可能にするために必要な保健システム強化のための強い政治的意思と資金供与を日本政府と G8 諸国に促すために、政策提言・政策討議を積極的に進めた。

**北海道洞爺湖サミットに向けて働きかけることを目的に結成され、国内の 141 の NGO が加盟。

***MDG4(乳幼児死亡率の削減)、MDG5(妊産婦の健康の改善)、MDG6(HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延防止)

2008 年 4 月から北海道洞爺湖サミット終了まで、ジョイセフと HWG は TICAD 閣僚会議やサミットの準備会合などの様々な機会をとらえ、政策提言やプレスリリースの発信の他、グローバルな市民社会と協働した活動を行い、日本政府と G8 諸国に向けて、サミットでの国際保健の取り組みを強く求めた。

- ・ 海外の NGO と連携したアドボカシーの推進(IPPF、ファミリー・ケア・インターナショナル(FCI)、Partnership for MNCH - 妊産婦及び乳幼児の健康を守るためのパートナーシップ - 他)

国際保健に関する市民社会シンポジウムの開催、Civil G8 対話、記者会見の実施等

- ・ TICAD 、および G8 プロセスへの働きかけ
TICAD 閣僚会議、G8 保健専門家会合、Civil G8 対話、TICAD ヘルスクラスタグループ、TICAD 等
- ・ 政策提言「TICAD の成果を G8 サミットへ」を活用したアドボカシー
- ・ NGO フォーラム、貧困開発ユニットと連携したアドボカシー

ジョイセフと HWG によるアドボカシー活動の成果

- I. サミットの議題として「国際保健」が取り上げられた。
- II. 国際保健課題の解決に向けて G8 の取るべき行動をまとめた「国際保健に関する洞爺湖行動指針」が発表された。またその中で、サミット史上初めて MDG4 と 5(母子保健)に焦点があてられた。
- III. 国際保健に取り組む国内外の市民社会ネットワークが拡大し、強化された。
- IV. サミットに向けた保健政策作りにおける市民社会と政府の連携が促進された。途上国

の草の根のニーズと日本の保健分野における経験をふまえた HWG の政策提言と働きかけは、政府のパートナーとしての NGO の認知と協力・連携推進につながった。

V. ジョイセフのアドボカシー NGO としての地位が確立し、認知度を上げた。

IPPF 東京連絡事務所としての TICAD への対応

TICAD に IPPF が正式に日本政府からの招待を受け、本会議に IPPF が参加する際の側面支援を引き続き行い、日本の市民社会との連携に努めた。

(主な活動)

- ・ 2008 年 5 月に横浜にて開催された TICAD への IPPF の参加にあたり、外務省・IPPF 間の連絡・調整を行い、IPPF による会議における発言および政府関係者との連携・協議に関する支援を行った。
- ・ TICAD に向けた日本の市民社会のネットワークである TNNet に参加し、市民社会としての連携をはかった。
- ・ IPPF との連携で、TICAD における日本政府の RH に対する取り組みおよび福田首相(当時)の開会スピーチにおける RH に関する言及を歓迎するプレスリリースを発行した。

「me too」キャンペーン活動の展開

2008 年 3 月 12 日に記者発表を行い、「me too - すべての人に、生きるチャンス。」キャンペーンを立ち上げた。G8 サミットに向けて、国際保健と貧困の分野で活動する NGO3 団体とともに、世界の貧困や格差を原因とし、また、格差をさらに助長する原因ともなる保健医療問題を解決するため、日本の一般市民の賛同の声を集め、日本政府をはじめとする G8 諸国へ国際保健分野への一層の援助拡大を求めた。

同日から「me too」ウェブサイトを立ち上げ、オンライン署名を開始、その後、記者会見や新聞記事・広告、テレビ・ラジオ出演、各種イベントを開催・参加を通し、合計約 2 万 2700 名の署名を集めた。集められた署名は、G8 サミットの前、ジョイセフ事務局長より福田首相に市民の声として届けられた。

市民サミットへの参加

北海道洞爺湖サミットに先立ち、2008 年 7 月 6 日(日) - 8 日(火)まで、「世界はきっと変えられる」をテーマに、市民サミットが開催された。会期中、海外 30 カ国からの 200 名を含む延べ 2000 名が参加した。ジョイセフは、途上国の女性のおかれた妊娠・出産の状況をテーマに、展示ブースとワークショップを開催した。

ワークショップ開催

期 日： 2008 年 7 月 8 日

場 所： 札幌コンベンションセンター

テーマ： みんなで作ろう手作りキルト - 妊娠・出産で亡くなるお母さんを減らすため、今ひとりひとりにできること

主 催： ジョイセフ

共 催： ホワイトトリボンアライアンス(WRA)

協 力： 早稲田大学ボランティアセンター

参加者： 一般市民 約 20 人

ホワイトトリボン運動特別イベント「アフタヌーンティーパーティ」

期 日： 2008 年 7 月 5 日

主 催： 駐日英国大使館

共 催： ホワイトトリボン・ジャパン(事務局：ジョイセフ)

場 所： 駐日英国大使館大使公邸

参加者： GO/NGO 開発関係者、母子保健専門家、メディアなど約 120 名

内 容： 北海道洞爺湖サミットに参加するために訪日中のサラ・ブラウン英国首相夫人と福田貴代子首相夫人(当時)の基調講演、並びに同時開催された妊娠や出産で命を落とした途上国の母親の物語のキルト展示を通じ、参加者にホワイトリボン運動への理解と協力を呼びかけた。

(ロ)GII/IDI/HDI*に関する外務省/NGO 懇談会

1994年3月の開始以来、NGO側の事務局として政府関係者との懇談会調整役を務めてきた。2009年3月現在の登録NGOは41団体。懇談会の回数も本年度末で85回目を迎えた。

GO/NGO連携をテーマに政策討議を進めてきたことに加えて、昨年度に引き続き、2008年に日本で開催した第4回アフリカ開発会議(TICAD)、そして北海道洞爺湖サミットに向けた意見交換を行った。サミット終了後は、TICAD 行動計画の実施に向けて、また北海道洞爺湖サミットでの保健分野における成果をイタリア G8 サミットにつなげていくために、フォローアップの意見交換を展開した。

期 日： 2008年5月15日、7月17日、9月11日、11月20日、
2009年1月22日、3月31日(隔月開催；第80～85回分)

場 所： 外務省

参加者： 外務省、JICA、NGO 懇談会メンバー団体

協議内容： ・ TICAD および G8 北海道洞爺湖サミットに向けた意見交換
・ TICAD 行動計画実施に向けたフォローアップ
・ イタリア G8 サミットフォローアップ
・ 平成 21 年度 ODA 予算案 など

*GII/IDI/HDI：「人口・エイズに関する地球規模問題イニシアティブ(GII)」(日本政府が1994年に発表)、「沖縄感染症対策イニシアティブ(IDI)」(2000年)。IDIの終了を受け、2005年6月に「保健と開発に関するイニシアティブ(HDI)」が発表された。

(ハ) IPPF 東京連絡事務所

前述の TICAD への参加における支援に加えて、IPPF 東京連絡事務所として、日本政府と IPPF の一層の連携強化に努め、H20年度は3回にわたる IPPF 事務局長の来日を側面支援した。また、(2)の(ニ)に記す、広報・出版活動を通じて IPPF の広報にも努めた。

(ニ)アドボカシーワークショップの開催

ジョイセフでは、2009年3月3日から5日までの3日間、IPPFのESEAOR(東・東南アジア・オセアニア地域事務局)との共催で、同地域の4カ国(韓国、タイ、中国、マレーシア)の加盟協会(MA)を招き、グローバルなRH推進を目指したアドボカシーの強化をテーマにワークショップを行った。

(ホ)「世界人口白書」記者発表

UNFPAが毎年行っている「世界人口白書」の11月12日の世界同時発表に向けて、日本のマスメディアを対象に記者発表を行った。

期 日： 2008年11月4日
場 所： 日本記者クラブ(東京都)
参加人数： 約30人

(ヘ)エイズデーイベントの開催

期 日： 2008年11月24日
場 所： 南青山 La Piccola(東京都)
テーマ： エイズで悲しむお母さんを0人に！
主 催： ジョイセフ
共 催： (株)クラブキング
参加人数： 一般市民 約50人

(ト)RH/R を考える会

期 日： 2008 年 4 月 25 日、6 月 10 日
主 催： RH/R を考える会(女性の超党派国会議員)・ジョイセフ
場 所： 衆議院議員会館
参加人数： 合計 25 名
内 容： 世界の女性を救うための Safe Motherhood の 20 年、途上国の女性の現状と日本への期待、アフリカにおける保健医療従事者の重要性 - 日本への期待

(チ)国会議員対策

ジョイセフ主催の上記の勉強会以外にも、個別面談、参議院 ODA 特別調査会参考人招致、議員主催勉強会出席出席、党主催勉強会、問い合わせ対応、議員海外渡航協力・スピーチ作成協力、議員ニュースレター・HP に記事掲載など、さまざまな形で議員対策を行った。

(リ)有森裕子 UNFPA 親善大使事務局

事務局として UNFPA 親善大使の活動を支援し、UNFPA の広報に努めた。

有森裕子 UNFPA 親善大使途上国訪問と帰国報告会

期 間： 2009 年 1 月 18 日 - 22 日
訪問先： マラウイ共和国(ムチンジ県、首都リロングウェ)の UNFPA のプロジェクト地区他
同行者： 読売新聞社、毎日新聞社、中日新聞東京本社、共同通信社、カメラマン、ジョイセフからは石井澄江、本間真理子
内 容： 妊産婦死亡と HIV 陽性率が高い現地の実情とその背景を見聞し、改善に向けた UNFPA の取り組みを中心に視察を行った。また、UNFPA の資金協力でマラウイ家族計画協会のユースセンター等で実施されている HIV 予防啓発活動や感染者支援プログラムを視察

帰国報告会

期 日： 2009 年 2 月 3 日
場 所： 日本プレスセンター
参加者： 報道関係者約 30 名
内 容： マラウイ視察報告

講演会

名 称： ロータリークラブ講演会
期 日： 2008 年 4 月 29 日
主 催： 鎌倉中央ロータリークラブ
場 所： 鎌倉パークホテル
参加者： 200 名
内 容： 有森裕子 UNFPA 親善大使がこれまで公式訪問した途上国の女性の現状を訴え支援協力を来場者に呼びかけた。(昨年の松本清一 JFPA 会長に続き世界の保健をテーマとした同クラブ主催の 2 回目の講演会)

名 称： 早稲田大学グローバル・ヘルス研究所設立記念シンポジウム
期 日： 2008 年 5 月 22 日
主 催： 早稲田大学グローバル・ヘルス研究所
後 援： 朝日新聞、ユニセフ東京事務所、UNFPA 東京事務所、ジョイセフ
場 所： 早稲田大学大隈大講堂
参加者： 約 1200 名
内 容： 同研究所の設立(2008 年 4 月)を記念し、国連機関、政治家、研究者、メディア、NGO が世界を変えるための場としてシンポジウムが開催され、有森親善大使が基調講演を行った。

名 称： 「わたしが出会った開発途上国の女性たち」
 期 日： 2008 年 9 月 12 日
 主 催： 法務省人権擁護局、財団法人人権教育啓発推進センター
 場 所： ニッショーホール
 参加者： 約 1000 名
 内 容： これまで公式訪問した途上国の女性の現状を訴え、人権の視点から途上国支援の重要性を来場者に呼びかけた。

名 称： 「有森裕子が出会った人びと」
 期 日： 2008 年 11 月 26 日
 主 催： 埼玉県立川越女子高校 PTA 文化教養委員会
 場 所： 埼玉県立川越女子高校
 参加者： 在学生・PTA 約 1000 名
 内 容： これまで公式訪問した途上国の女性の現状を訴え、人権の視点から途上国支援の重要性を来場者に呼びかけた。

名 称： 渋谷シンポジウム「有森裕子が出会った人びと」
 期 日： 2009 年 2 月 26 日
 主 催： 東京都渋谷区
 場 所： 国連大学エリザベス・ローズホール
 参加者： 約 250 名
 内 容： これまで公式訪問した途上国で感じたこと、UNFPA の取組みを説明し、途上国支援の重要性を来場者に呼びかけた。

他に有森裕子氏の親善大使としてのテレビ、ラジオなどのメディア出演、新聞、雑誌、広報誌等の取材を全面的にサポートした。

(ヌ)メディア対策

TV、新聞、ラジオ、雑誌などの媒体を通じた広報活動を通じて、より一層の支援拡大を図るために、メディアを対象に下記の活動を行った。

メディアセミナー

期 日： 2008 年 4 月 25 日
 場 所： ジョイセフ
 テーマ： 「G8 サミットに向けた課題と国際的動向を考える」
 講 師： ジル・シェフィールド ファミリー・ケア・インターナショナル名誉会長、高橋秀行
 参加者： 11 名

フォトジャーナリストツアー (ザンビア)

ザンビア家族計画協会 (PPAZ) を協力機関に実施しているザンビアのプロジェクト地区へフォトジャーナリストおよびイラストレーターなどのアーティストを対象とし、視察ツアーを実施した。母子保健や HIV/エイズ対策をテーマに、草の根の保健ボランティアなどが中心に行っている地域に根ざした活動の視察を行った。写真および動画やイラストなど、今後の広報活動に有効な素材を得ることが出来たと同時に、ジョイセフの活動を支援するメッセンジャーの発掘にもつながった。

期 間： 2008 年 4 月 20 日 - 30 日
 訪問先： PPAZ と共同して行っているプロジェクト実施地区 他 (ザンビア：コッパーベルト州マサイティ郡)
 参加者： フォトジャーナリスト 1 名、ビデオ撮影 1 名、イラストレーター 1 名、建築家 1 名、ジョイセフ 2 名

人口問題協議会 研究会シリーズ

1973 年の発足以来、世界と日本の人口問題の調査研究、啓発活動に 35 年間取り組んできた人口問題協議会が「日本の行方を考える」をテーマとして研究会を開催した。

2008 年は、5 月に TICAD 、また 7 月に北海道洞爺湖サミットが開催されたのを好機として、グローバルな視点で、日本の方向性と内外とのパートナーシップを探るため、専門家の講義をもとに、討論を深めた。

期 日： 2008 年 6 月 19 日
場 所： ジョイセフ
テーマ： 日本の人口・世界の人口 少子高齢化、グローバルな人口問題の理解のために
講 師： 河野稔果(元厚生省人口問題研究所長・麗澤大学名誉教授)
参加者： 約 20 名

期 日： 2008 年 8 月 5 日
場 所： ジョイセフ
テーマ： 「日本型移民政策」を問う - 人材開国は未来社会へ活路を開くか -
講 師： 坂中英徳(外国人政策研究所長)
参加者： 約 20 名

期 日： 2008 年 10 月 28 日
場 所： ジョイセフ
テーマ： 「少子高齢化」、女性の視点
講 師： 樋口恵子(東京家政大学名誉教授)
参加者： 約 20 名

期 日： 2008 年 12 月 15 日
場 所： ジョイセフ
テーマ： 少子高齢化、日本の第 4 のチャレンジ
講 師： 小川直宏(日本大学人口研究所長)
参加者： 約 20 名

期 日： 2009 年 3 月 10 日
場 所： ジョイセフ
テーマ： 超少子化への対応を考える - 日本とフランス、スウェーデンの比較を通じて
講 師： 阿藤誠(早稲田大学特任教授)
参加者： 約 20 名

(ル)国際 NGO ネットワーキング：APA/ICPD(ICPD 行動計画推進に向けてのアジア太平洋地域ネットワーク)への参加

Asian Pacific Allianace(APA)は、アジア大洋州地域の支援国(オーストラリア、日本、ニュージーランド、韓国、タイ)がメンバーとなり NGO、政府開発援助機関、助成団体によって作られているネットワーク。ジョイセフは議長として、ネットワーク参加と組織の調整を図っている。日本からは(財)オイスカ、コンサベーション・インターナショナル、(特活)アフリカ日本協議会がメンバーとして参加。

名 称： 2008 年 APA 会議
期 間： 2008 年 10 月 5 日 - 10 月 11 日
場 所： タイ・チェンマイ
参加者： APA 会議関係者 約 60 名

内 容： 資金調達のためのアドボカシーをテーマに移民や難民に対する SRH のサービスの提供の必要性や、タイ家族計画協会(PPAT)のプロジェクトの視察を通してアジア太平洋地域における RH のニーズを捉え、同地域でのアドボカシーのニーズについて議論した。

(ヲ)アドボカシー研修

名 称： 2008 年 RH・NGO 指導者ワークショップ
 期 間： 2008 年 11 月 14 日 - 11 月 20 日
 場 所： インドネシア・ジャカルタ
 内 容： アドボカシーの能力強化のため、広報アドボカシースタッフを RH・NGO 指導者研修ワークショップに派遣し、インドネシア家庭保健財団(YKB)による講義や現地プロジェクトの視察に参加した。NGO の持続的な RH 推進と NGO が果たす役割と可能性を具体的な事例から学ぶというテーマの下、ジョイセフの歴史的な取り組みや YKB の継続的な取り組みから RH 推進に必要な取り組みについて理解を深めることができた。

(2)広報・出版活動

(イ)ホームページの拡充

前年度の日本語 TOP ページの 1 日の平均アクセスは 3,679 件で、年間では 134 万 2682 件になった(前年度比 107%増)。2008 年 3 月 21 日に日本語 TOP ページを刷新したところ、直帰率(ジョイセフのサイトに訪れて最初のページで帰る人)が 42.05%から、35.53%に減った。しかし、7 月には再び以前の直帰率に戻ってしまった。専門家の調査分析で、この現象はホームページの編集や更新のシステムや体制の問題、マーケティング(広報)戦略の欠如が原因と指摘された。そこで早急に広報戦略を立て、その後他の広報媒体も含めて完全リニューアルを図ることを今後の課題とし、本年度は他社の運営サーバーを使用しブログの運営を続行したところ、5 月以降ブログ Tarte へのアクセス数がホームページへのアクセス数を上回り、年間アクセス数は 200 万 8,259 件。コメント数は、年間 2,460 件にも及んだ。また、ジョイセフ支援者などの個人が運営するブログサイトからジョイセフのホームページに訪れる人が 38 万 9,377 人(訪問者全体の 29%)に及び、個人ブログがジョイセフの重要な広報媒体であることがわかった。本年度のアクセス数推移、元リンク順位は別添 [P36 図 1](#) 参照。

(ロ)和文月刊機関紙「世界と人口」の発行

ニュースレターの体裁に刷新してから 5 年を経過し、特に医療・看護の関係者や支援者を中心に読者層が拡大した。ジョイセフの活動報告と広報、国内外の人口問題、RH/R、FP、MCH、国際協力、女性の人権等に関する情報を提供する月刊紙を、政府、地方自治体、マスコミ関係者、および人口・FP、MCH 関係者やジョイセフ支援者を中心に幅広く配布した。発行部数毎月 2,000 部

(ハ)「世界人口白書 2008」日本語版の制作

UNFPA の「世界人口白書 2008：共通の理解を求めて - 文化・ジェンダー・人権」の日本語版(監修・阿藤誠早稲田大学特任教授)6,000 部を制作・配布した。11 月 12 日の世界同時発表以降、全国紙(朝日・読売・産経・日経)、国内英字紙および地方の約 50 紙の新聞・雑誌のほか、紙媒体の新聞社とウェブ専門のニュースによるウェブの配信も 37 件以上あった。

(ニ) IPPF の委託による出版物の制作

TICAD、北海道洞爺湖サミットが日本で開催された好機をとらえ、日本の国会議員、関係者(外務省をはじめ日本の ODA 関連機関)、会議参加者に、より広く IPPF の活動を紹介することを目的として下記を発行した。

- 1) 「セクシュアル/RH/ライツに関するアフリカ大陸政策の枠組みの実施のためのマプト行動計画」の発行(日本語版、200部)。
- 2) 「IPPF in Africa」の発行(英文、50部)
- 3) 「世界への窓 - HIV のリスクと脆弱性」(日本語版、400部)
- 4) 「Window into a world - HIV risk & vulnerability」(英文、400部)
- 5) 「IPPF 要覧」の増刷(A4 4ページ、500部)

(3)資金調達活動

人口・家族計画分野の国際協力事業を拡大するため、以下の活動を行った。

(イ)国際機関に対する日本政府の拠出金維持・確保のための活動

UNFPA、IPPF 等に対する日本政府拠出金維持・確保に向けた活動を行った。

(ロ)ジョイセフ事業資金の募金活動

ジョイセフの事業をより一層発展させるため、募金活動を行った。

(4)国際協力推進キャンペーン

使用済み切手・プリペイドカードの収集ボランティア活動を国際協力に活用する国際協力推進キャンペーンは、全国の小・中・高等学校、大学、病院、企業、地区組織、労働組合、ボランティアグループや個人等から支援を得た。これらの活動は、新宿区ボランティアセンターから紹介されたボランティアやホームページからの申込みによる多くのボランティアに支えられた。

また本年度もアフガニスタンの子どもたちにランドセルを贈る活動は、多くの市民から協力を得た。(ランドセル寄贈実績一覧 P30、救援衣料寄贈実績一覧 P30)

(イ)講演会・研修会・ワークショップ・上映会活動

会議・ワークショップ・イベント開催および協力(実績一覧 P23)

講師派遣実績一覧(P26)

研修受入れ実績一覧(P27)

(5)物資援助

(イ)再生自転車供与

1990年6月に発足した「再生自転車海外譲与自治体連絡会(MCCOBA・ムコーバ)」の2008年4月現在の加盟団体は、東京都文京区、大田区、世田谷区、豊島区、練馬区、荒川区、武蔵野市、埼玉県川口市、さいたま市、所沢市、上尾市、静岡県静岡市および広島県広島市の13自治体とジョイセフの計14団体である。

本年度は、2,925台の再生自転車を、開発途上国11カ国に提供した。IPPF、各国家族計画協会などの要請により各地の草の根の母子保健・妊産婦保健プロジェクト地区に寄贈した。

日本からの輸送費については、JKA、自転車産業振興協会、東京都駐車場道路整備公社、ムコーバ加盟地方自治体、(株)ロッテ、ライオンズクラブからの資金協力、日本郵船グループの海上輸送協力および一般からの募金で賄った。(再生自転車供与実績一覧 P27)

(ロ)寄贈物資供与

地方自治体、学校、企業他国内の支援者より、プロジェクト活動に必要な各種物資の寄贈を受け、各国の家族計画協会などに供与した。再生ノートと鉛筆はフィールドワーカーの活動記録用やプロジェクト地区住民の識字教育に、また小学校では学用品として活用された。

(寄贈実績一覧 P29)

(ハ)再生自転車海外譲与活動の一環として支援団体・企業への訪問を行い、協力に対するお礼と現地における自転車活用状況の報告を行った。併せて、ノート、鉛筆他学用品等使用状況等報告を行った。(実績一覧 P31)

3. 人材養成・専門家派遣・受入れ

RH 分野の人材養成を目指し、ICPD 行動計画の実現と MDGs の達成に向けて、以下のテーマを通じて NGO の能力強化(地域に根ざした RH 推進、GO/NGO の連携強化)、思春期 SRH の推進、BCC(行動変容を促すコミュニケーション)手法の促進、より安全な母性推進と妊産婦死亡の低減、地域保健の推進と農村の生活向上を旨とし、国内外の人材養成を行った。

ジョイセフは設立以来人材養成に重点をおき、JICA委託他によるRH分野の各種の研修コースを実施してきた。これまで受入れた研修生は87カ国、5,500余名にのぼる。現在、集団研修(世界各国対象)、地域別研修、各国別研修の3つの形態で研修事業を実施している。また、個別に国内外に向け研修事業を展開している。

(1)集団研修(世界各国対象)

「思春期保健(ASRH)ワークショップ」と「RH・NGO指導者ワークショップ」の2コースを実施しICPDで合意されたGO/NGOの連携強化、RH推進、およびASRHの向上を図っている。

(イ)思春期保健(ASRH)ワークショップ～若者のための環境づくりとパートナーシップ向上を目指して～(期間：2008年5月20日-6月14日)

アフガニスタン、バングラデシュ等、9カ国14名のNGOおよび政府の研修生を受入れ、栃木県の「とちぎ思春期研究会」の取り組みや兵庫県での県および市町村レベルにおける地域のネットワーク作り、小学校など教育現場での取り組み、研修生間の経験交流および活動計画の立案を行った。また、IPPF本部のASRH専門家を招聘し、プログラムの一環として理論と実践を網羅した3日間のワークショップを行った。

(ロ)RH・NGO指導者ワークショップ～自立を目指したNGOの能力強化～(期間：2008年9月24日-10月20日)

アフガニスタン、ボリビア等13カ国13名のRH分野NGOの指導者を受入れ、戦後から今日に至る日本の家族計画運動と母子保健行政を紹介した。また、長野県への地方視察を通して、県レベル・市町村レベルの住民参加、行政と民間機関の連携を学んだ。研修後半は、保健会館グループの支援を受けジョイセフが実施した「寄生虫予防・栄養・家族計画インテグレーションプロジェクト」の現地カウンターパートであるインドネシア家庭保健財団/YKBの経験を学ぶ研修を同国で行った。講義・視察では、NGOの持続的なRH推進とNGOが果たす役割と可能性を具体的な事例から学び、インドネシアで根付き、発展した日本の経験について考察した。また、帰国後は、行政・住民と連携したNGOによるRH推進に関する行動計画を立案した。

(2)地域別研修

アフリカ地域および南アジア地域を対象に2コースの研修を実施した。

(イ)「アフリカ地域 RH 行動変容(BCC)戦略ワークショップ」(期間：2008年11月21日 - 12月11日)

第4回目となる本年は、ケニア、タンザニア等4カ国、計8名のGO・NGOの研修生を受入れ、東京における講義および沖縄県における地方研修を通じ、日本における地域住民主体の保健教育活動の事例をもとに、研修員が効果的な情報・コミュニケーションの手法、システム、戦略を学び、各国において地域のニーズにあったBCC活動計画の立案を行った。

(ロ)「より安全な妊娠と出産アジア地域ワークショップ～妊産婦をとりまくコミュニティにおける環境づくりに向けて」(期間：2009年1月25日 - 2月14日)

バングラデシュ、ブータン等南アジアを中心としたアジア地域を対象に7カ国14名のSafe Motherhood(安全な母性)分野の指導者を受入れ、より安全な妊娠と出産に向けた環境づくりをテーマに、研修を実施した。

東京での講義および群馬県への地方視察を通じ、住民参加による地域展開型母子保健の推進、地域レベルでのマネジメント・モニタリング・母子保健計画および現場の妊産婦の立場に立ったサービスと女性の能力向上について学び、行動計画を立案した。また、WHO 母子・新生児保健対策部の専門家を招聘し、プログラムの一環としてアドボカシーおよび行政とNGOの連携をテーマに、理論と実践を網羅したミニワークショップを行った。

(3)各国別研修

ニカラグア、中国、ベトナムで実施しているプロジェクトのカウンターパートを対象に下記の4コースの研修を実施した。

(イ)中国「貴州省道真県、雷山県住民参加型総合貧困対策モデルプロジェクト」カウンターパート研修(期間：2008年7月3日 - 15日)

ジョイセフがJICAから委託を受けて実施している上記プロジェクトのカウンターパート研修を実施し、研修生7名と中国社会科学院の農村開発専門家2名を受け入れた。東京において日本の地域保健やRH推進システム、農村の生活改善活動の経験等に関する講義を行い、岩手県では、地域に根ざした保健活動の現場や農村における生活改善運動の経験、農協の取り組み等について実地視察した。東京では保健会館グループの協力を得て研修を行い、岩手県では、財団法人岩手県予防医学協会の協力を得て、岩手県庁、岩手県予防医学協会、西和賀町、遠野市、葛巻町、JAいわて中央等での視察研修を実施した。

(ロ)ニカラグア国「思春期RH強化プロジェクト」第4回カウンターパート研修～保健行政マネジメント研修～(期間：2008年9月2日 - 12日)

ニカラグア国においてJICAの委託により2005年から2009年まで実施している上記プロジェクトのカウンターパートを受入れ、研修を行った。本研修では保健省中央(政策・計画レベル)と2モデル県の県保健局長の計3名を対象とし、日本の国家レベルにおけるASRHの取り組みや、栃木県での県および市町村レベルにおける行政と地域のネットワーク作り、中学校の性教育の視察見学、ユース・フレンドリー・サービスへの取り組み等、思春期保健プログラムの具体的な戦略作りについて学んだ。また思春期保健推進における行政の役割について学び、行動計画案を作成した。

(ハ)ベトナム国「RHケア広域展開アプローチプロジェクト」カウンターパート研修(期間：2009年2月19日 - 3月13日)

ベトナム国ゲアン省で JICA とともにジョイセフが実施してきた、RH 向上のためのプロジェクト終了に伴い、ゲアン省の経験をベトナムの他 4 省に移転する広域展開プロジェクトの関係者を受入れ研修を行った。本研修では、広域展開対象の 4 省およびゲアン省から 10 名のカウンターパートが来日し、東京における講義および新潟県での地方視察を通じ、住民参加による地域展開型 RH 推進、プライマリーヘルスケアの視点に立った母子保健推進、RH 推進に向けた課題別取り組み(思春期保健、更年期保健等)および患者の立場に立ったサービスについて学び、行動計画の立案を行った。

(4)個別研修

外国人研修員を対象として、国際協力機構(JICA)、国立保健医療科学院、日本国際協力センター、国際保健医療交流センター、北方圏センター帯広国際センターなどより委託を受け、計約 70 名の日本人・外国人研修員を対象に講師派遣および受け入れ研修を行った。また、保健会館グループ関係団体である日本寄生虫予防会が実施する「国際寄生虫予防指導者セミナー」への協力をを行った。

(5)インターンシップ受入れ

大学生、外国人留学生等計 10 名をジョイセフのインターンとして受け入れた。

(6)専門家の受入れ

毎年、海外から多くの専門家を受入れ、日本の経験、ジョイセフのプロジェクト等に関する資料・情報提供や情報交換を行っている。本年度も各国政府、国連、国際機関、NGO 関係者等、団体・個人の専門家を受け入れた。(実績一覧 P31)

(7)専門家派遣

ジョイセフが、アジア、アフリカ、中南米地域において支援する開発プロジェクトの運営、事業のモニタリングおよび技術指導・研修実施のため、必要に応じて ジョイセフ役職員、RH、FP、MCH、BCC、衛生行政、公衆衛生、寄生虫予防活動の専門家、その他必要な分野の専門家を派遣している。本年度は UNFPA の委託による各地域事業推進、関係機関との連携による国際会議出席、日本政府(外務省、JICA)のミッションへの派遣協力、視察団派遣事業等、アジア、アフリカ、中南米地域等へのミッション派遣を行った。

(イ)国際協力プロジェクト推進のための技術協力・モニタリング・ミッション等(実績一覧 P32)

(ロ)日本政府(外務省・JICA)ミッション等派遣協力(実績一覧 P32)

(ハ)国際・地域会議への参加等(実績一覧 P34)

4. メディア・コミュニケーションズ

人口 RH 分野の国際協力プロジェクトを、情報コミュニケーション技術(ICT)や技術移転によって支援する事業部門で、2008 年からは J_CEU(JOICFP Communication Experts Unit)という名称で活動を展開している。

2008 年は、ハイビジョン化に対応するため、制作室機材のアップグレードを行った。これにより、普及しつつあるハイビジョン放送にも対応できる撮影・編集体制が整った。

(1) デジプラン (DigiPlan) アーカイブ拡充

31 カ国/40 年以上におよぶ人口・RH 分野に関する既存の情報(テキスト/映像/音声)を、映像を中心にデジタル記録・保存し、新たな運用のために情報資産化するタスク。

(イ)2007 年に UNFPA 関連の開発途上国における地域プロジェクトの記録撮影をカンボジア、インドネシア、モンゴル、ミャンマー、バングラデシュ、スリランカ、ガーナ、ザンビアの 8 カ国で行ったが、その結果撮影された静止画 46,329 点と動画 960 分のファイルの処理(データベース登録用フォーマット変換)が引き続き実施された。

(ロ)フォーマット変換したファイルをデータベースのカタログへプログラミングした。2008 年度にプログラミングされたアーカイブデータ総数は 25,143 ファイル。

(2) デジプラン (DigiPlan) ネットワーク拡充

発展途上国における人口・RH に関する現行の情報を集積し、国/地域/世界の各レベルにおいて、情報連結・共有を期するタスク。

(イ)UNFPA ラオスカントリープログラムの活動の一環として、データベースのカタログを有効利用し、既存教材のレビューを行った。データベースをこのように使用したことは初の試みであり、現地からも大きな関心を集めた。これを機に、現地での RH に特化したデータベースの技術移転に発展する可能性が生まれている。

(3) デジプラン (DigiPlan) コンテンツ制作

コンピューターと親和性の高い制作技術を練磨し、新たなコンテンツを生み出すタスク。

(イ)2007 年に実施した世界銀行支援の若者の政策提言能力強化プロジェクトで、ジョイセフの技術移転を受け、アジアの若者達が作成したアドボカシービデオをまとめた『アクション!! (Action!!)』(DVD)が完成した。若者自身が企画書、および台本を作り、撮影を行ったビデオは人目を引く斬新なものであり、アドボカシーにも利用できるとても有効なツールだと言える。DVD と連動した撮影技術に関するジョイセフのオリジナルの技術書『Build Production Skills to Empower Yourself』も完成した。

(ロ)新規事業獲得に向けて提出されるプロポーザル書類にオリジナルのデザインを施したテンプレートを作成した。これが功を奏し、新事業獲得の一要因となったようである。また、新ユニット J_CEU のアピールを兼ねた技術メニュー入りの名刺や現地語(ラオ語、ネパール語)版の紹介パンフレットも作成した。

(ハ)行動変容を促した証拠を持つツールを各国のプログラムで適用しやすくするためのテンプレートを作成した。4種類のツール(紙芝居・ピクチャーカード・ポスター・卓上用カード)のグローバル版とラオス、ミャンマー、ネパール版のテンプレートを作成した。

(ニ)既存教材 Power Model から派生して生まれた新教材 Verification Board と Easy Planning Board が完成した。

(4) アプロダクション (APPRODUCTION)

上記(1)と(3)の技術や成果を、発展途上国に対し技術移転するタスク。アプロダクションとは、Appropriate(状況に適應させた)と Production(情報の中身を生み出す)を結合させた造語で、ジョイセフの関連プロジェクトに、プラグインする。

(イ)UNFPA ラオスカントリープログラムにてデータベースソフトウェアを活用した、既存教材レビューのトレーニングを行った。

(ロ)UNFPA ネパールカントリープログラムの下、論理的なコミュニケーション戦略作りに関する研修を行った。

(ハ)東アフリカ地域を対象とした JICA 主催の BCC セミナーの中で、BCC の基礎知識をテーマにアプロダクション・セッションを東京で実施した。

(ニ)FASID 主催の「行動変容のためのコミュニケーション戦略研修」にて、アプロダクションとしては初めて、開発分野で活動する日本の専門家を対象とした技術移転を行った。

(5)メディア・プロモーション

独自に開発した教材の配給を通じて、技術移転を促進させる。また、同時にジョイセフの BCC/コミュニケーション技術力の高さ、専門性をアピールする。

(イ)ジョイセフ映像作品の継続的な配給業務を行った。

(ロ)「DigiPlan 技術書」、「パワーモデル」などのコミュニケーションスキルアップ教材の継続的な配給業務を行った。

(ハ)性教育に関する総合情報誌『季刊 セクシュアリティ』の表紙に、デジプラン・アーカイブの静止画が使用されることになった。2008 年 7 月(37 号)から、セクシュアリティ(リプロダクティブ・ヘルス)に関する写真が毎号表紙を飾っている。

5. 調査・研究

人口、RH、FP 分野の各種調査・研究を各国プロジェクト実施の一環として行った。また、外務省・JICA 等政府の派遣する調査団へ役職員を専門家として参加させるとともに、本年度も国連(ECOSOC)登録 NGO、日本政府および JICA の役務提供コンサルタントとしてジョイセフの専門性を活かした協力を行った。

本年度は、厚生労働省国立国際医療センター・国際医療協力研究委託費「母子保健分野における国際協力の効果的方法に関する研究」の一環として実施された「母子保健施策の指標に関する調査」(主任研究者：中村安秀、大阪大学人間科学科教授；分担研究者：池上清子、UNFPA 東京事務所長)に参加、協力を行った。

本研究では、ミレニアム開発目標 5「妊産婦の健康の改善」に関わる「妊産婦死亡率(MMR)」は開発途上国の統計能力では正確に測定することが困難であるという現状を踏まえ、MMR に代わるもしくは補完する代替指標を見出すことを目的に、フィリピン・タイにおいて国際機関および両国の国内機関の母子保健関係者を対象に、母子保健関連事業のモニタリング・評価指標に関して調査を行った。研究は次年度にも継続実施の予定である。

また、外務省 ODA 評価、NGO との合同評価「アジアの基礎生活分野(BHN)の評価」に関して協力を行った。

6. タスクフォース

(1)公益法人制度改革対応

平成 20 年 12 月に施行された新公益法人制度に対応し、公益財団法人への移行を目指し、関係機関と協力しながら、必要な情報収集を行った。

(2)40 周年記念事業

ジョイセフ創立 40 周年を機に、理解者・支援者の拡大を目指し、さらなる組織の強化を実現するためのツールとして、40 周年記念パンフレット(お母さんと赤ちゃんの笑顔を支えて 40 年)を制作し、ジョイセフの歴史と活動の理解を図った(初刷 10,000 部、増刷 15,000 部)。

(3)母の日イベント

ジョイセフの活動の認知度を上げ、理解者・支援者の拡大につなげるキャンペーン活動の一環として、恒例の母の日イベントを著名人の参加協力を得て下記の通り開催した。

期 日： 2008 年 4 月 13 日

場 所： 時事通信ホール

テーマ： 世界中のお母さんを笑顔にしよう！

主 催： ジョイセフ

共 催： (株)クラブキング

協 賛： (株)ロツテ

協 力： 映画プルミエール

出演者： 千野志麻(アナウンサー)、大葉ナナコ(パースコーディネーター)、茂木健一郎(脳科学者)、内田也哉子(文筆家)、内堀タケシ(写真家)

参加人数： 一般市民 約 200 人

成 果： ホワイトリボンの認知度を上げることが出来た。
支援者の拡大をすることが出来た。

資料編

ジョイセフ開発プロジェクト一覧

プロジェクト 実施国/支援国	対象国/実施地区名	実施機関	対象人口 (単位：千人)	主な資金 ソース
アジア地域				
アフガニスタン	ナンガハール州ベスード県、 クズ・クナル県、ハスカミ ナ県、カマ県	アフガン医療連合センター	120	真如苑/ (株)三菱東京UFJ 銀行社会貢献 基金 / CPP*
インドネシア	スマトラ・バンダアチェ地区 (スマトラ沖地震・津波復興 支援)	IPPA	20	CPP ベルマーク教 育助成財団
	ウェスト・ヌサ・テンガラ州 イースト・ロンボク県ジェロ ワル郡	IPPA	14	CPP* (株)ヤクルト本 社
中国	貴州省三穗県	中国計画生育協会	3	IPPF
	貴州省道真県・雷山県	中国国家人口・計画生育委員 会、貴州省人口・計画生育委 員会	65	JICA
	四川省平武県	中国国家人口・計画生育委員 会、四川省人口・計画生育委 員会	1	CPP ベルマーク教 育助成財団
ネパール	UNFPA カントリープログラム 対象 6 県	保健省・保健情報教育コミュ ニケーションセンター	未定	UNFPA
ベトナム	バクニン省ザビン郡・イエン フォン郡	ベトナム家族計画協会	103	ISC/電力 総連 / CPP*
	ゲアン省、ハナム省、タイ ンホア省、ニンビン省、ハ ティン省	ベトナム保健省、ゲアン省 および対象 4 省保健局	307	JICA
ミャンマー	UNFPA カントリープログラム 対象地区 (112 タウンシップ)	保健省・健康教育推進本部	22,400	UNFPA
	シャン州・ナウンチョー、チ ャウメータウンシップ	保健省保健局母子保健課	342	JICA PROTECO
	ヤンゴン管区クンヤンゴン・ タウンシップ	在ミャンマー・ジョイセフチ ーム	1	CPP* ベルマーク 教育助成財団
モンゴル	アルカンガイ州カサート地区	モンゴル家庭福祉協会	3	CPP*
ラオス	UNFPA カントリープログラム 対象 3 県	保健省・保健情報教育センタ ー	未定	UNFPA
アフリカ地域				
ガーナ	アシャンティ州アハフォ・ア ノ・サウス郡	ガーナ家族計画協会	20	IPPF
ザンビア	コッパーベルト州マサイティ 郡、ムボンゲ郡、	ザンビア家族計画協会	300	IPPF、CPP*
タンザニア	キリマンジャロ州、モロゴロ 州、ムワンザ州、マラ州、シ ンギダ州	タンザニア家族計画協会 (UMATI)	677	CPP*
中南米地域				
ニカラグア	グラナダ県、ボアコ県	保健省、県保健局	360	JICA
3 地域/12 カ国				

*1 CPP : Community Partnership Program : ジョイセフ国際協力推進キャンペーンに基づく支援

会議・ワークショップ・イベント開催

期 日	主 催	場 所	派遣員	内 容
2008年 4月6日	Radio-i 79.5	ジョイセフ	甲斐和歌子	FM 放送に電話出演、ランドセルをアフガンの子どもたちに贈る活動を紹介
4月12日	思い出のランドセル	横浜貿易倉庫	甲斐和歌子 他スタッフ	アフガニスタン向けランドセルの検品作業(約100名が参加)
4月13日	ジョイセフ	時事通信ホール	ジョイセフ スタッフ	世界中のお母さんを笑顔にしよう!をテーマに千野志麻、大葉ナナコ、茂木健一郎、内田也哉子らのトークショー、内堀タケシ写真展等の母の日イベント開催
4月22日	G7NGOアライアンス会合	京都市国際交流会館	高橋秀行	G7国のネットワーク NGO 関係者と意見交換を行った。
4月24日	ジョイセフ	ジョイセフ	高橋秀行	ベルマーク教育助成財団への感謝状贈呈式
4月26日	第79回メーデー中央大会	代々木公園	簡野芳樹 他スタッフ	メーデー会場にてホワイトリボン運動の活動内容を紹介
5月12日	エコモチプログラム披露会合	SONY ミュージックインテ-メント	簡野芳樹	企業の環境 CSR の事例紹介
5月17日	J-Wave Kiss & Hug	ジョイセフ	柴 千里	FM 放送で再生自転車の活動を紹介
5月22日	再生自転車海外譲与自治体連絡会(ムコーバ)総会	東京都豊島区	高橋秀行 簡野芳樹 他	平成 20 年度譲与計画承認
5月26日	鎌倉中央ロータリークラブ	同クラブ例会(鎌倉市)	林 陽子(ジョイセフ理事) 本間真理子	国連女性差別撤廃委員会委員・ジョイセフ理事林陽子氏のジェンダーと暴力について国際的な状況報告・同クラブよりジョイセフに募金贈呈
6月11日	NGO・JICA連携事業検討会	JICA 本部	高橋秀行	NGO と JICA の連携に関する事項について意見交換
6月13日	NGO 労働組合国際協働フォーラム合同企画委員会	総評会館	簡野芳樹	NGO と労働組合との国際協力に関する意見・情報交換
6月13日 ~ 16日	世界の貨幣・切手・テレホンカードまつり実行委員会	東京交通会館	簡野芳樹 鈴木潤一 他	2008 世界の貨幣・切手・テレホンカードまつりでジョイセフの活動紹介
6月23日	NGO 労働組合国際協働フォーラム合同企画委員会	総評会館	高橋秀行 鈴木潤一	NGO と労働組合との連携事例報告会に参加・情報交換
7月6日 ~ 8日	市民サミット/貧困開発ユニットラウンドテーブル	札幌コンベンションセンター	ジョイセフ スタッフ	札幌市民サミットで、ワークショップを開催、MDGs5の重要性を訴えた。
7月10日	キルト展キックオフイベント	ラ・コレツィオーネ(表参道)	ジョイセフ スタッフ	妊娠や出産で命を落とした母親の物語のキルトを披露し、途上国の女性が置かれている状況を紹介
7月12日 ~ 19日	ホワイトリボンキルト展	東京都庁展望室	ジョイセフ スタッフ	妊娠や出産で命を落とした母親の物語のキルトを一般市民に披露し、途上国の女性が置かれている状況を紹介
7月17日 ~ 19日	日比 NGO ネットワークシンポジウム	日本青年館、国際文化会館	高橋秀行 鈴木潤一	日比 NGO ネットワークの協力推進のためのシンポジウムに参加、意見交換
8月2日	思い出のランドセル	横浜貿易倉庫	甲斐和歌子 他スタッフ	アフガニスタン向けランドセルの検品作業(企業ボランティア約20名参加)
8月4日 ~ 17日	東京FM主催「レインボープロジェクト」	アートディッシュ・ギャラリー(神楽坂)	甲斐和歌子	アフガンの子どもたちを支援する活動。日本から贈られたクレヨンで現地の子どもたちが描いた母親の絵の展示
8月8日	「チャリンコあげたいな」	麻布区民センター	簡野芳樹	再生自転車がアフリカに渡り人命を救う物語の劇公演による協力
8月30日	きよせの森総合病院納涼祭	同病院	高橋秀行 甲斐和歌子他	ホワイトリボン運動を紹介
9月24日	豊島区区議会	豊島区	高橋秀行	豊島区議会議員カンボジア視察旅行団に関する意見交換

期 日	主 催	場 所	派遣員	内 容
9 月 25 日	NGO・JICA、NGO・JIBIC 合同準備協議会	JICA 地球広場	高橋秀行	NGO・JICA 定期協議会の今後のあり方について意見交換
10 月 1 日	救援衣料センター	大阪市	高橋秀行 甲斐和歌子	第 10 回なんばウォーク「あなたの古着を世界に届けよう」にてザンビア大使に同行参加し、市民に協力を要請
10 月 4 日 ～5 日	グローバルフェスタ JAPAN2008 実行委員会	日比谷公園	ジョイセフ スタッフ	展示とクイズ形式で、途上国の出産の現状とジョイセフの活動を紹介
10 月 6 日	ソロプチミスト東リジョン	横浜ベイシエラ トンホテル	高橋秀行 他スタッフ	同研修会 (600 名参加) で、ホワイトリボン活動を紹介
10 月 9 日	ソロプチミスト東リジョン	ホテルニューオ タニ	高橋秀行 他スタッフ	同研修会 (900 名参加) で、ホワイトリボン活動を紹介
10 月 11 日	Sun's Market チャリティコンサート	糺ホール	簡野芳樹 甲斐和歌子 鈴木潤一	「桃ちゃんのランドセル」曲を紹介するコンサートに参加
10 月 24 日	再生自転車海外譲与自治体連絡会 (ムコーバ) 幹事会	東京都武蔵野市	高橋秀行 甲斐和歌子	再生自転車海外譲与に関する意見交換
10 月 25 日 ～26 日	日本国際保健医療学会・日本熱帯医学会合同学会	国立国際医療センター	西田良子	「望まない妊娠の防止と避妊へのアクセス - 日本と世界の現状」報告
11 月 5 日	東京都豊島区・島根県浜田市	島根県浜田市	高橋秀行 簡野芳樹	島根あさひ社会復帰促進センター視察、再生自転車の整備協力に関する意見交換
11 月 5 日 ～7 日	第 49 回日本母性衛生学会・学術集会 テーマ「今日の母性とその将来」	シェラトン・グランデ・トーキョーベイ	石井澄江 西田良子 本間真理子 柚山 訓 矢口真琴 塩田恭子	JFPA 常務理事北村邦夫氏が学会会長を務めた同学会へ協力を行った。秋篠宮妃殿下、UNFPA、IPPF、WHO、NGO 等による講演、シンポジウム等に協力
11 月 8 日	330-A 地区ライオンズクラブ	有楽町駅前他	ジョイセフ スタッフ	お母さんの命を救う街頭募金を実施
11 月 10 日	東京都印刷工業組合豊島支部、豊島区印刷関連産業団体協議会	東京都豊島区役所	高橋秀行 簡野芳樹	「リサイクルノート」贈呈式で 30,000 冊のノートの寄贈を受けた
11 月 13 日	ベルマーク教育助成財団	ベルマーク教育助成財団	高橋秀行 甲斐和歌子 柴 千里	同財団のバンダアチェ支援に関する活動報告
11 月 14 日 ～15 日	JANIC	国立オリンピック記念青少年総合センター	本間真理子	NGO の総務・労務担当者対象研修に助言委員として参加
11 月 15 日	きよせの森総合病院	同左	高橋秀行 甲斐和歌子	児童の絵画コンクール入賞者表彰式に参加
11 月 17 日	荏原法人会	荏原文化センター	ジョイセフ スタッフ	ジョイセフへの支援のためのチャリティ寄席に参加
11 月 18 日	日比 NGO ネットワーク会合	ジョイセフ	高橋秀行 鈴木潤一	母子保健勉強会に参加
11 月 22 日	(株)三菱東京 UFJ 銀行	同銀行西東京市 グランド	簡野芳樹 他スタッフ	「わくわくフェスタ」に参加、ホワイトリボンの活動およびランドセル寄贈活動を紹介
11 月 24 日	(株)クラレ	丸ビル	高橋秀行 甲斐和歌子	「ランドセルは玉手箱」イベント参加
11 月 26 日	(株)ヤクルト	ヤクルト本社	高橋秀行 甲斐和歌子 柴 千里	インドネシア母子保健プロジェクトの活動報告
11 月 29 日	(株)メガネスーパー	日産スタジアム	簡野芳樹 柴 千里	Jリーグの試合観戦者に向けた世界のお母さんと赤ちゃんの命を救う活動紹介と募金の呼びかけ

期 日	主 催	場 所	派遣員	内 容
12月5日～6日	JANIC	川崎生涯研修センター	本間真理子	NGOの総務・労務担当者対象研修に助言委員として参加
12月11日	プレス報告会	ジョイセフ	高橋秀行 甲斐和歌子 柴 千里	インドネシア・アチェ視察記者報告会
12月12日～15日	2008 世界の貨幣・切手・テレホンカード祭り実行委員会	東京交通会館	簡野芳樹 他スタッフ	ジョイセフの活動紹介
12月13日	ライブビジョン	京王プラザホテル	簡野芳樹	ジョイセフの活動支援のチャリティパーティーに参加、意見交換
12月13日	東京丸の内ライオンズクラブ	東京會館	高橋秀行 甲斐和歌子	同クラブ結成 50周年記念式典に参加
2009年 1月18日	ジョイセフ	ジョイセフ	高橋秀行 鈴木潤一	フレンドリーディ・インターナショナル関係者にホワイトリボン運動の活動内容を紹介
1月20日	立教大学	同大学	高橋秀行	RAC 創設者・会長 Abed 氏の同大学名誉博士号授与式と記念講演会参加
1月23日	電力総連	ジョイセフ	高橋秀行 鈴木潤一	電力総連募金贈呈式
1月27日	電力総連	同左	高橋秀行 鈴木潤一	WHO本部母子・新生児保健対策部部長イスラム博士の世界の妊産婦保健の現状報告会
1月27日	豊島区	帝京平成大学・池袋キャンパス集会場	高橋秀行 他スタッフ	カンボジア視察報告会と WHO 本部母子・新生児保健対策部部長イスラム博士講演会
1月29日～30日	電機連合	パシフィコ横浜	簡野芳樹	全国集会でフェアトレードコーヒーを活用した母子保健活動の事例紹介
1月30日	JICA・ジョイセフ共催	JICA 研究所	ジョイセフ スタッフ	WHO本部母子・新生児保健対策部部長イスラム博士講演会
2月6日	連合	総評会館	高橋秀行 簡野芳樹	フェアトレードセミナーに参加
2月6日	東京 FM	同左	簡野芳樹	デイリープラネットラジオ番組出演、アフガンの子どもたちにローソクとランドセルを贈る活動紹介
2月23日	(株)東京海上日動コミュニケーションズ	同左	簡野芳樹	CSR 活動に関する意見交換
2月23日	鎌倉中央ロータリークラブ	同クラブ例会	本間真理子	同クラブのジョイセフに対する支援に対するお礼とマラウイの MCH 事情報告
2月24日	JICA	JICA 研究所	高橋秀行 鈴木潤一	企業と NGO 連携 CRM セミナーに参加
2月25日	新宿区社会福祉協議会	同左	簡野芳樹	ボランティアコーディネーターワークショップ参加

講師派遣

期 日	主 催	場 所	派遣員	講義のテーマ・内容	参加者
2008年 5月24日	麻布学園高等学校	同学園	吉留 桂	「特別授業」リレー講座で 「NPO/NGOという世界の可能性」	20名
6月11日	日比谷ライオンズク ラブ	日比谷松本楼	簡野芳樹	ホワイトリボン運動と再生自転車海 外譲与活動を報告	13名
6月13日	JETRO アジア経済研究 所開発スクール	同研究所	高橋秀行	「世界の人口問題と途上国の開発現 場における実践経験」	15名
6月19日	桜美林大学ビジネス マネジメント学群	同大学	西田良子	「ジョイセフの家族、母子、女性の ための国際協力の経験から」	60名
6月20日	青年海外協力協会 (JOCA)	JICA 地球ひろば	西田良子	青年海外協力隊派遣前研修(地域看 護研修):「RHの実践」	14名
6月24日	東京外国語専門学校	同校	甲斐和歌子	ジョイセフの紹介と活動経験	20名
6月24日	アジア女性交流・ 研究フォーラム	JICA 東京国際セ ンター	西田良子	ジェンダー主流化政策のための行政 官セミナー「RHとジェンダー」	15名
6月30日	国際医療福祉大学	同大学	浅村里紗	「RH とジェンダー・ジョイセフの 活動」	200名
8月2日	KGE ネット北区男女共 同参画センター	同センター「ス ペースゆう」	阪上晶子	「私の体を知ろう - 途上国の若者の 性と健康の取組み」	30名
8月20日	堺女性大学 企画運営委員会	堺市立女性セン ター	浅村里紗	「RHとジェンダー」	200名
8月25日	国際看護交流協会	JICA 東京国際セ ンター	浅村里紗 勝部まゆみ	「RH について」「ベトナムにおける JICA RHプロジェクトについて」	16名
9月5日	日比谷ライオンズク ラブ	日比谷松本楼	簡野芳樹	途上国の母と子の命を救うホワイト リボン運動と支援の方向性について	20
9月26日	青年海外協力協会 (JOCA)	JICA 東京国際セ ンター	船橋 周	「アフリカのエイズ活動の事例」	
10月24日	日本女子大学人間社 会学部	同大学西生田キ ャンパス	西田良子	「国際活動講座」でジョイセフの国 際協力活動	100名
10月29日	津田塾大学国際関係 学科	同大学	西田良子 塩田恭子	ジョイセフの国際協力の実践	200名
10月31日	青梅市立第三小学校	同校	甲斐和歌子	ジョイセフの国際協力活動とランド セル募金	60名
11月25日	高知県立高知南高校	同校	西田良子	高校生向けキャリア教育の一環とし て国際活動の経験について	300名
12月8日	長崎大学大学院 国際健康開発研究科	同左	西田良子	ジョイセフの国際保健分野の活動	15名
12月13日	青葉区小学校	同校	柴 千里	保護者向け「想い出のランドセル募 金活動」の紹介	40名
12月15日	青梅市立藤橋小学校	同校	甲斐和歌子	ジョイセフの国際協力活動と「想い 出のランドセル募金」	60名
2009年1月 22 - 23日	FASID	FASID 研修室	吉野 篤 福田友子	行動変容のためのコミュニケーション 研修	24名
1月26日	三重大学医学部看護 学科	同左	西田良子	「看護国際比較論」におけるジョイセ フの国際協力活動の経験紹介	35名
2月10日	日本寄生虫予防会	ジョイセフ	高橋秀行	「I P の理念と実践」	14名
2月16日	アジア女性交流・ 研究フォーラム	JICA 東京国際セ ンター	浅村里紗	「人口問題と家族計画」	7名
2月19日	お茶の水女子大学付 属高等学校	同校	浅村里紗	JOICV 派遣前研修(地域保健分野、 保健師・助産師・看護師対象)	100名
3月4日	AFS日本協会、友の会	同協会	西田良子	ジョイセフの国際協力活動の紹介	30名
3月13日	新宿山吹高校	同校	簡野芳樹	ホワイトリボン運動	20名

研修受入れ実績

期日(期間)	研修名称	参加者	依頼機関
2008年 6月2日	JICA 国別研修(中国)「地域保健計画」プログラム 中国中西部地域 RH・家庭保健サービス提供能力強化プロジェクト	1	国立保健医療科学院
6月3日	第3回子どもの死亡削減と国際協力セミナー	8	国際保健医療交流センター
6月17日	JICA 学校保健コース	14	独立行政法人国際協力機構 中部国際センター
7月3日	保健衛生管理セミナー	20	国立保健医療科学院
7月16日	JICA 国別研修(中国)「地域保健行政」プログラム 中国中西部地域 RH・家庭保健サービス提供能力強化プロジェクト	17	国立保健医療科学院
9月10日	ジョイセフの国際協力活動および途上国への支援 としてホワイトリボン運動を紹介	50	都立飛鳥高校
7月31日	UNFPA 東京事務所スタッフ向け BCC 戦略構築研修	9	UNFPA 東京事務所
10月23日	総合学習「国際理解」の一環として、ジョイセフ の国際協力活動および途上国の現状を紹介	4	鳩ヶ谷市立里中学校
11月10日	「保健医療分野における IEC 活動」コース	12	日本国際協力センター 沖縄支所
11月18日	産業医科大学現場実習生カリキュラム	3	東京都予防医学協会
12月4日	ジョイセフの国際協力活動および途上国への支援 としてホワイトリボン運動を紹介	6	実践女子中学校
12月13日	ジョイセフの国際協力活動および途上国への支援 として思い出のランドセル募金を紹介	50	横浜市青葉区谷本中学校
2009年 1月9日	ジョイセフの国際協力活動および途上国への支援 としてホワイトリボン運動を紹介	6	福島県立勿来工業高等学校
2月4日	ジョイセフの国際協力活動および途上国への支援 としてホワイトリボン運動を紹介	5	東京女学館中学校
3月16日	「保健医療分野における IEC 活動」コース(B)	10	日本国際協力センター 沖縄支所

平成 20 年度再生自転車供与実績

提携自治体/台数	出荷国名/供与先	付属部品(本/セット)	寄贈時期
豊島区/150台	ミャンマー/ミャンマー母子福祉協会	タイヤチューブ 150 エア・ポンプ 60 パンク修理セット 150	2008年6月
世田谷区/100台 武蔵野市/50台	カンボジア/カンボジア・リプロダクティ ブ・ヘルス協会	タイヤチューブ 150	2008年7月
文京区/50台 川口市/55台 練馬区/50台 大田区/20台 さいたま市/25台	ミャンマー/ミャンマー母子福祉協会	分解工具セット 10 プレーキワイヤ 100 エア・ポンプ 20 タイヤチューブ 200 パンク修理セット 200 スクリューボルト 300	2008年7月
川口市/45台 大田区/30台 広島市/75台	アフガニスタン/アフガン医療連合	タイヤチューブ 150 エア・ポンプ 60 パンク修理セット 150	2008年8月

武蔵野市 /50 台 大田区 /20 台 世田谷区 /100 台 文京区 /50 台 さいたま市 /25 台 豊島区 /130 台 荒川区 /25 台	ガーナ /ガーナ家族計画協会	分解工具セット 20 ブレーキワイヤ 200 エア・ポンプ 40 タイヤチューブ 400 パンク修理セット 400 スクリュースボルト 600	2008 年 9 月
大田区 /50 台 川口市 /50 台 武蔵野市 /50 台	ネパール /ネパール家族計画協会	タイヤチューブ 150 エア・ポンプ 60 パンク修理セット 150	2008 年 10 月
世田谷区 /100 台 川口市 /50 台	カンボジア /カンボジア・リプロダクティブ・ヘルス協会	エア・ポンプ 60 タイヤチューブ 150 パンク修理セット 150	2008 年 11 月
豊島区 /100 台 荒川区 /50 台 練馬区 /50 台	マラウイ /マラウイ家族計画協会	分解工具セット 10 ブレーキワイヤ 100 エア・ポンプ 20 タイヤチューブ 200 パンク修理セット 200 スクリュースボルト 300	2008 年 11 月
荒川区 /25 台 武蔵野市 /50 台 川口市 /5 台 豊島区 /24 台 北区 /20 台 多摩市 /16 台 中野区 /10 台	ベトナム /ベトナム家族計画協会	エア・ポンプ 60 タイヤチューブ 150 パンク修理セット 150	2008 年 12 月
文京区 /50 台 大田区 /50 台 豊島区 /50 台 川口市 /45 台 さいたま市 /5 台	ザンビア /ザンビア家族計画協会	分解工具セット 10 ブレーキワイヤ 100 エア・ポンプ 20 タイヤチューブ 200 パンク修理セット 200 スクリュースボルト 300	2008 年 12 月
世田谷区 /100 台 豊島区 /50 台 川口市 /50 台	ザンビア /ザンビア家族計画協会	分解工具セット 10 ブレーキワイヤ 100 エア・ポンプ 20 タイヤチューブ 200 パンク修理セット 200 スクリュースボルト 300	2009 年 1 月
広島市 /75 台	ソロモン /ソロモン諸島家族計画協会	タイヤチューブ 75 エア・ポンプ 30 パンク修理セット 150	2009 年 1 月
静岡市 /150 台	アフガニスタン /アフガン家庭ガイダンス協会	タイヤチューブ 150 エア・ポンプ 60 パンク修理セット 150	2009 年 1 月
豊島区 /105 台 川口市 /25 台 さいたま市 /20 台 大田区 /50 台	モンゴル /モンゴル家庭福祉協会	分解工具セット 10 ブレーキワイヤ 100 エア・ポンプ 20 タイヤチューブ 200 パンク修理セット 200 スクリュースボルト 300	2009 年 2 月
世田谷区 /100 台 大田区 /50 台 武蔵野市 /100 台 川口市 /75 台 練馬区 /50 台 さいたま市 /25 台	タンザニア /タンザニア家族計画協会	分解工具セット 20 ブレーキワイヤ 200 エア・ポンプ 40 タイヤチューブ 400 パンク修理セット 400 スクリュースボルト 600	2009 年 3 月
計：2,925 台			

平成 20 年度寄贈物資供与リスト

寄贈先	寄贈元	寄贈品	寄贈時期
ミャンマー/ミャンマー母子福祉協会	豊島区 ジョイセフ	鉛筆：4,000本	2008年6月
		ノート：1,000冊	
		ペン：2,795本	
		消しゴム：181個	
		縄跳び：8本	
		ボール：29個	
		その他文具：2,743個	
カンボジア/カンボジア・リプロダクティブ・ヘルス協会	豊島区 ジョイセフ	鉛筆：4,000本	2008年7月
		ノート：1,000冊	
		ペン：1,836本	
		消しゴム：146個	
		ボール：12個	
		その他文具：2,480個	
ミャンマー/ミャンマー母子福祉協会	豊島区 ジョイセフ	ノート：1,000冊	2008年7月
		ペン：1,500本	
		消しゴム：294個	
		縄跳び：12本	
		その他文具：2,527個	
アフガニスタン/アフガン医療連合	豊島区 ジョイセフ	鉛筆：4,000本	2008年8月
		ノート：1,000冊	
		ペン：2,500本	
		テーブル：18台	
		椅子：20脚	
		その他文具：13,720個	
ガーナ/ガーナ家族計画協会	豊島区 ジョイセフ	鉛筆：4,000本	2008年9月
		ノート：1,000冊	
		ペン：2,855本	
		消しゴム：479個	
		縄跳び：11本	
		その他文具：10,845個	
ネパール/ネパール家族計画協会	豊島区 ジョイセフ	鉛筆：4,000本	2008年10月
		ノート：1,000冊	
		ペン：2,632本	
		消しゴム：9個	
		その他文具：1,952個	
カンボジア/カンボジア・リプロダクティブ・ヘルス協会	豊島区 ジョイセフ	鉛筆：1,918本	2008年11月
		ノート：1,000冊	
		ペン：1,685本	
		消しゴム：166個	
		その他文具：3,089個	
マラウイ/マラウイ家族計画協会	ジョイセフ	ノート：14,000冊	2008年11月
ベトナム/ベトナム家族計画協会	ジョイセフ	ノート：4,400冊	2008年12月
		その他文具：3,780個	
ザンビア/ザンビア家族計画協会	ジョイセフ	フリーケース：2,000個	2008年12月
ザンビア/ザンビア家族計画協会	ジョイセフ	フリーケース：2,000個	2009年1月
ソロモン/ソロモン諸島家族計画協会	豊島区 ジョイセフ	鉛筆：4,000本	2009年1月
		ノート：1,000冊	
		フリーケース：2,000個	
アフガニスタン/アフガン家庭ガイダンス協会	豊島区 ジョイセフ	鉛筆：4,000本	2009年1月
		ノート：1,500冊	
		フリーケース：9,900個	

モンゴル/モンゴル家庭福祉協会	荒川区 豊島区 ジョイセフ	ノート：3,000冊	2009年2月
		鉛筆：35,000本	
		ペン：1,500本	
タンザニア/タンザニア家族計画協会	豊島区 荒川区 ジョイセフ	鉛筆：43,000本	2009年3月
		ノート：4,000冊	
		ペン：1,500本	
		傘：300本	
		メジャー：31個	
		体重計：16台	
		その他文具：358個	

平成 20 年度ランドセル寄贈実績

寄贈者	ランドセルの個数	寄贈先	輸送費負担者	寄贈団体	寄贈時期
市民	6,240個	アフガニスタン/アフガン医療連合	(株)クラレ/寄付	ジョイセフ	2008年4月
市民	1,417個	アフガニスタン/アフガン医療連合	(株)クラレ/寄付	ジョイセフ	2008年6月
市民	2,470個	アフガニスタン/アフガン医療連合	(株)クラレ/寄付	ジョイセフ	2008年10月
市民	1,414個	モンゴル/モンゴル家庭福祉協会	(株)クラレ/寄付	ジョイセフ	2008年6月

平成 20 年度救援衣料寄贈実績

寄贈先	寄贈時期	寄贈団体	寄贈時期
中国/四川省人口計画生育委員会	特定非営利活動法人 日本救援衣料センター	救援衣料 44,060着	2008年6月
ミャンマー/ミャンマー母子福祉協会	特定非営利活動法人 日本救援衣料センター	救援衣料 161,540着	2008年6月
	(株)ユニクロ		
ザンビア/ザンビア家族計画協会	特定非営利活動法人 日本救援衣料センター	救援衣料 179,200着	2009年1月
アフガニスタン/アフガン医療連合	特定非営利活動法人 日本救援衣料センター	救援衣料 29,440着	2009年1月
	(株)ユニクロ		
アフガニスタン/アフガン家庭ガイダンス協会	特定非営利活動法人 日本救援衣料センター	救援衣料 86,000着	2009年1月

平成 20 年度支援団体・企業等への訪問

期日	表敬先	面会者	訪問者・目的
2008年 12月4日	さいたま市役所	小宮義夫副市長 大塚英男副市長	ザンビア家族計画協会カインバ氏 再生自転車寄贈御礼
5月27日	日本救援衣料センター	豊田祐典事務局長	ザンビア農業協同組合省大臣サイフワンダ氏 救援衣料寄贈御礼
6月11日	日本郵船(株)	和崎揚子 CSR 推進グループ 長他	アフガン過程ガイダンス協会アクバル氏 再生自転車輸送協力御礼
2009年1 月27日	電力総連	南雲弘行会長	WHO 本部妊産婦保健部長M・イスラム氏 ベトナム母子保健事業支援御礼
3月6日	駐マラウイ大使館	レピンガ経済企画・開発大 臣、ゴンドゥエ駐日マラウ イ大使	再生自転車寄贈活動について説明、マラウイ からは寄贈に対する謝意表明

専門家の受入れ

氏名	所属	期間	内容
デリア・バルセロナ	UNFPA モンゴル事務所長	2008年 4月10日	UNFPA 事業に関する情報交換、特に BCC 分 野における今後の協力について協議
星 作男	東京大学医学部付属病院呼吸器内科 大学院薬学系研究科・寄附講座ファ ーマコビジネス・イノベーション教室	4月16日	BCC について具体的な取り組みや経験につ いて意見交換
ホセ・リモン	ゲイツ財団 グローバルヘルスポリシ ー&アドボカシー シニアプログラム オフィサー	4月22日	ゲイツ財団の FP/RH 分野のアドボカシー 戦略及び日本でのアドボカシーに関する 展望について協議
ジル・シェフィール ド	ファミリー・ケア・インターナシヨナル 名誉会長	4月22日 ～28日	Civil 88 対話参加、RH/R の会、メディア セミナー、JICA での講義等参加
ジル・グリア	IPPF 事務局長	5月27日 ～30日	TICAD 参加
トラヤ・オベイド	UNFPA 事務局長	6月3日	J_CEU の技術や実施プログラムを紹介し、 今後の技術協力についての意見交換
高橋 伸子	UNFPA 広報渉外部国会・NGO 担当オフィ サー	7月1日	ジョイセフの UNFPA 委託事業に関する協 議
ジル・グリア	IPPF 事務局長	7月1日 ～4日	「人口と開発に関する国会議員会議」参 加
勾 清 明(次官) 以下5名	中国国家人口・計画生育委員会	10月20日 ～25日	ジョイセフ、日本家族計画協会、JICA、 国立保健医療科学院訪問と情報・意見交 換
ジル・グリア 他1名	IPPF 事務局長	11月3日 ～8日	「保健システム強化に向けたグローバ ル・アクションに関する国際会議」およ び「第49回母性衛生学会」参加、外務 省・国会議員・その他日本政府関係者と 協議
堀部 伸子	UNFPA アジア太平洋地域事務所長	11月26日	BCC 能力強化事業に関する協議
クオジ・モニル・イ スラム博士	WHO 本部の母子・新生児保健対策部部 長	2009年1月 25日～31日	国内の支援関連団体および一般市民を対 象に途上国における妊産婦保健の現状に ついて紹介
ラジ・カリム	IPPF 東・東南アジア・オセアニア地域 事務局長	3月2日 ～5日	IPPF アドボカシーワークショップ参加、 外務省・JICA との協議

国際協力プロジェクト推進のための技術協力・モニタリング・ミッション等

期 間	場 所	派遣員	内 容
2008年 4月19日～26日	エチオピア	福田友子 飯塚勇也	UNFPA アフリカ地域コンサルテーション会議に参加し、今後の技術協力の可能性を協議
4月20日～30日	ザンビア	船橋 周 矢口真琴	フォトジャーナリストツアーに同行し、ジョイセフのザンビアにおける活動を紹介した。
5月27日～6月4日	米国	福田友子 飯塚勇也	世界銀行にて今後の BCC 技術協力の可能性を協議、また UNFPA 本部にて新規地域事業立ち上げに向けた協議
7月2日～17日	タイ、ミャンマー、ラオス	福田友子 吉留 桂	現地 RH/BCC 関連組織と今後の技術協力の可能性を協議
8月26日～9月4日	ラオス、ネパール	福田友子	UNFPA ラオスにてアーカイブ構築の技術移転、ネパールでは現地組織と今後の技術協力の可能性を協議
9月1日～6日	カンボジア	高橋秀行 柚山 訓 高橋朝子	豊島区議会議員カンボジア視察旅行団に同行し、ジョイセフのカンボジアにおける活動を紹介した
10月13日～22日	インドネシア	高橋秀行、甲斐和歌子 柴 千里	インドネシアプロジェクト地区の母子保健支援活動のモニタリングを行った
10月21日～11月8日	ミャンマー、ラオス	吉野 篤 福田友子	UNFPA ミャンマーと UNICEF ミャンマー委託の業務に関して 2009 年の事業計画を策定、また UNFPA ラオスの委託による既存教材レビューワークショップを開催
11月7日～22日	ネパール	吉野 篤 吉留 桂	NHEICC と協働でコミュニケーション戦略構築のためのワークショップを実施、また VCT プロモーションと BCC 強化のための現地調査
11月23日～30日	中国	本間由紀夫	中国計画生育協会との共同プロジェクト実施モニタリング
12月8日～16日	中国	本間由紀夫 内山智尋	報道機関記者のジョイセフ中国プロジェクト地区視察同行とモニタリング
2009年 2月16日～3月11日	ミャンマー、ラオス	吉野 篤 福田友子	UNICEF ミャンマー依頼の紙芝居制作に関して、制作概要書を作成、及び UNFPA ラオスの新規教材制作の計画書作成
2月26日～3月14日	ネパール、タイ	吉野 篤 吉留 桂	UNFPA ネパールにて効果的な RH コミュニケーションプログラムに対する技術移転、及びタイにて UNFPA アジア太平洋事務所と 2009 年度の活動計画について協議
3月22日～4月1日	ガーナ	矢口真琴	IPPF ガーナ事業の RH と HIV/エイズの連携状況の確認、ジョイセフとの合同プロジェクトの情報収集および関係者との協議

日本政府(外務省・JICA)ミッション等派遣協力

期 間	場 所	派遣員	内 容
2008年 5月1日～10月3日	ミャンマー	野木美早子	JICA 民間提案型技術協力：ミャンマー国地域展開型 RH プロジェクト(業務調整)
5月15日～7月12日	ベトナム	勝部まゆみ	JICA ベトナム国 RH ケア広域展開アプローチプロジェクト(副総括)
5月15日～8月30日	ニカラグア	高木史江	JICA ニカラグア国思春期 RH 強化プロジェクト(副総括)
5月17日～8月14日	ニカラグア	本田真由美	JICA ニカラグア国思春期 RH 強化プロジェクト(若者参加・業務調整)
5月25日～7月8日	ミャンマー	鈴木良一	JICA 民間提案型技術協力：ミャンマー国地域展開型 RH プロジェクト(総括)

6月2日～21日	ベトナム	武田佐和子 (葛飾赤十字産院)	JICA ベトナム国 RH ケア広域展開アプローチプロジェクト(助産サービス)
6月19日～29日	ベトナム	浅村里紗	JICA ベトナム国 RH ケア広域展開アプローチプロジェクト(IEC/BCC)
6月26日～7月8日	ミャンマー	腰原亮子	JICA 民間提案型技術協力:ミャンマー国地域展開型 RH プロジェクト(地域組織活動)
6月26日～8月14日	ニカラグア	村上友美子 (有エストレージャ)	JICA ニカラグア国思春期 RH 強化プロジェクト(研修システム/若者対象のサービス)
7月23日～8月8日	中国	内山智尋	JICA 貴州省貧困対策プロジェクト(生計向上)
8月3日～23日	中国	櫻田忠宏(JFPA) 本間由紀夫	JICA 貴州省貧困対策プロジェクト(教材制作セミナー)
8月2日～9月8日	ミャンマー	金容林 (保健師)	JICA 民間提案型技術協力:ミャンマー国地域展開型 RH プロジェクト(地域保健 1)
8月10日～30日	ミャンマー	山田智康 (アイシーネット)	JICA 民間提案型技術協力:ミャンマー国地域展開型 RH プロジェクト(調査・モニタリング)
8月11日～9月6日	ミャンマー	船橋 周	JICA 民間提案型技術協力:ミャンマー国地域展開型 RH プロジェクト(IEC/BCC)
8月11日～9月10日	ミャンマー	小黒道子(聖路加看護大学 看護学部看護学科助教)	JICA 民間提案型技術協力:ミャンマー国地域展開型 RH プロジェクト(助産教育)
8月11日～9月18日	ミャンマー	鈴木良一	JICA 民間提案型技術協力:ミャンマー国地域展開型 RH プロジェクト(総括)
8月26日～10月4日	ベトナム	勝部まゆみ	JICA ベトナム国 RH ケア広域展開アプローチプロジェクト(副総括)
9月7日～30日	中国	加島準子(JAPC) 簡野芳樹	JICA 貴州省貧困対策プロジェクト実施(寄生虫予防・家庭保健セミナー、マニュアル作成ワークショップ)
9月11日～24日	中国	本間由紀夫	JICA 貴州省貧困対策プロジェクト(総括、マニュアル作成ワークショップ、モニタリング)
9月12日～24日	中国	内山智尋	JICA 貴州省貧困対策プロジェクト(生計向上、マニュアル作成ワークショップ、モニタリング)
9月14日～27日	ベトナム	石井澄江	JICA ベトナム国 RH ケア広域展開アプローチプロジェクト(総括)
9月16日～12月21日	ニカラグア	高木史江	JICA ニカラグア国思春期 RH 強化プロジェクト(副総括)
9月20日～12月17日	ニカラグア	本田真由美	JICA ニカラグア国思春期 RH 強化プロジェクト(若者参加・業務調整)
9月27日～10月17日	ニカラグア	吉留 桂	JICA ニカラグア国思春期 RH 強化プロジェクト(若者のエンパワーメント)
9月28日～10月30日	ミャンマー	腰原亮子	JICA 民間提案型技術協力:ミャンマー国地域展開型 RH プロジェクト(地域組織活動)
10月11日～19日	ミャンマー	小黒道子(聖路加看護大学 看護学部看護学科助教)	JICA 民間提案型技術協力:ミャンマー国地域展開型 RH プロジェクト(助産教育)
10月14日～11月3日	ニカラグア	岩永俊博 (地域医療振興協会)	JICA ニカラグア国思春期 RH 強化プロジェクト(住民参加と保健行政)
10月18日～24日	ミャンマー	山田智康 (アイシーネット)	JICA 民間提案型技術協力:ミャンマー国地域展開型 RH プロジェクト(調査・モニタリング)
10月19日～3月15日	ミャンマー	野木美早子	JICA 民間提案型技術協力:ミャンマー国地域展開型 RH プロジェクト(業務調整)
10月20日～11月19日	ミャンマー	鈴木良一	JICA 民間提案型技術協力:ミャンマー国地域展開型 RH プロジェクト(総括)
10月28日～12月16日	ベトナム	勝部まゆみ	JICA ベトナム国 RH ケア広域展開アプローチプロジェクト(副総括)
11月4日～20日	中国	内山智尋	JICA 貴州省貧困対策プロジェクト(生計向上、終了時評価活動、モニタリング)
11月6日～18日	中国	本間由紀夫	JICA 貴州省貧困対策プロジェクト(総括、終了時評価活動、モニタリング)
11月11日～20日	ミャンマー	船橋 周	JICA 民間提案型技術協力:ミャンマー国地域展開型 RH プロジェクト(IEC/BCC)
11月15日～30日	ミャンマー	木下真里(名古屋大学大学院 医学系研究科)	JICA 民間提案型技術協力:ミャンマー国地域展開型 RH プロジェクト(地域保健 1)

11月15日～3月1日	ミャンマー	櫻井佐知子 (助産師)	JICA 民間提案型技術協力：ミャンマー国地域展開型 RH プロジェクト(地域保健 2)
11月22日～12月12日	ニカラグア	浅村里紗	JICA ニカラグア国思春期 RH 強化プロジェクト(IEC/BCC)
12月21日～2009年1月10日	ミャンマー	山田智康 (アイシーネット)	JICA 民間提案型技術協力：ミャンマー国地域展開型 RH プロジェクト(調査・モニタリング)
12月23日～2009年1月10日	ミャンマー	小黒道子(聖路加看護大学看護学部看護学科助教)	JICA 民間提案型技術協力：ミャンマー国地域展開型 RH プロジェクト(助産教育)
2009年1月4日～22日	ベトナム	勝部まゆみ	JICA ベトナム国 RH ケア広域展開アプローチプロジェクト(副総括)
1月4日～3月5日	ニカラグア	高木史江	JICA ニカラグア国思春期 RH 強化プロジェクト(副総括)
1月6日～2月24日	ニカラグア	村上友美子 (有エストレージャ)	JICA ニカラグア国思春期 RH 強化プロジェクト(研修システム/若者対象サービス)
1月10日～17日	ベトナム	石井澄江	JICA ベトナム国 RH ケア広域展開アプローチプロジェクト(総括)
1月10日～3月11日	ニカラグア	本田真由美	JICA ニカラグア国思春期 RH 強化プロジェクト(若者参加・業務調整)
1月10日～24日	中国	本間由紀夫	JICA 貴州省貧困対策プロジェクト(総括、県プロジェクト経験普及セミナー、モニタリング)
1月11日～25日	中国	内山智尋	JICA 貴州省貧困対策プロジェクト(生計向上、県プロジェクト経験普及セミナー、モニタリング)
1月13日～3月1日	ミャンマー	鈴木良一	JICA 民間提案型技術協力：ミャンマー国地域展開型 RH プロジェクト(総括)
1月19日～2月7日	ミャンマー	腰原亮子	JICA 民間提案型技術協力：ミャンマー国地域展開型 RH プロジェクト(地域組織活動)
1月23日～3月13日	ミャンマー	木下真里(名古屋大学大学院医学系研究科)	JICA 民間提案型技術協力：ミャンマー国地域展開型 RH プロジェクト(地域保健 1)
1月25日～2月13日	ニカラグア	勝部まゆみ	JICA ニカラグア国思春期 RH 強化プロジェクト(総括)
2月13日～3月5日	中国	内山智尋	JICA 貴州省貧困対策プロジェクト(生計向上、省プロジェクト経験交流普及会、モニタリング)
2月15日～3月7日	中国	本間由紀夫	JICA 貴州省貧困対策プロジェクト(総括、省プロジェクト経験交流普及会、モニタリング)
2月18日～3月6日	ミャンマー	腰原亮子	JICA 民間提案型技術協力：ミャンマー国地域展開型 RH プロジェクト(IEC/BCC)

国際・地域会議への参加等

期 間	場 所	派遣員	内 容
2008年 4月7日～8日	日本	石井澄江 矢口真琴	アフリカ・パートナーシップ・フォーラム
4月23日～24日	日本	石井澄江 柚山 訓	Civil G8対話
5月25日～31日	米国	福田友子 飯塚勇也	Global Health Conference にてセッション参加 およびブース出展
5月28日～30日	日本	石井澄江 矢口真琴	TICAD
7月2日～3日	日本	石井澄江 矢口真琴	人口と開発に関する国会議員会議
7月7日～9日	日本	石井澄江 矢口真琴	G8メディアセンター
7月23日～27日	マレーシア	石井澄江	IPPF ESEAOR 地域理事会

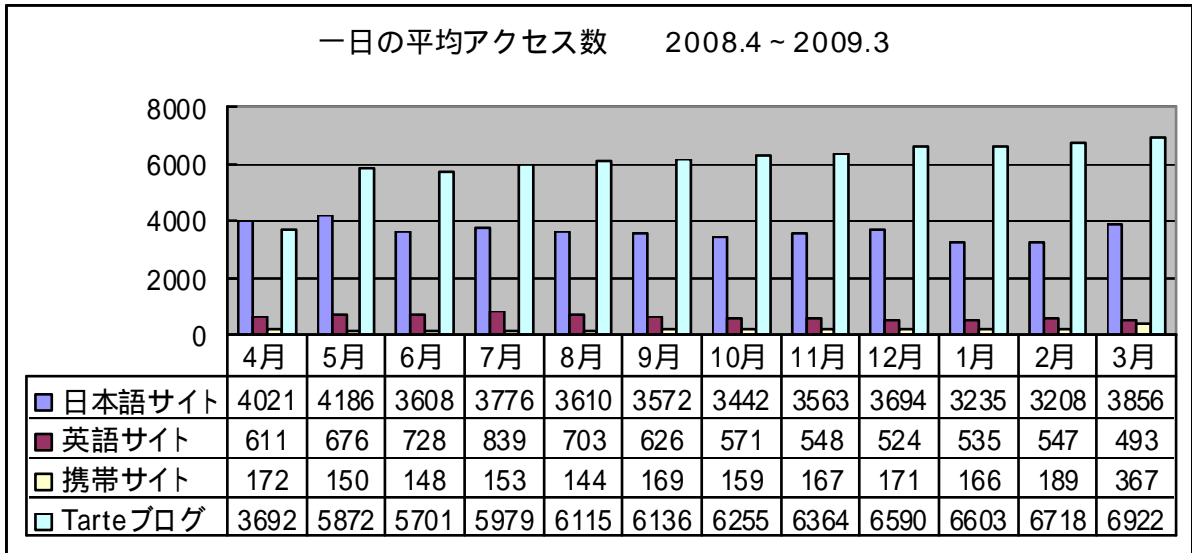
8月11日～19日	エチオピア	石井澄江	南野智恵子、北川イッセイ、島尻アイコ議員ミッション同行
8月27日～30日	中国	石井澄江	第5回 APCRSHR 国際運営委員会
9月25日～26日	米国	矢口真琴	MDGsに関するハイレベル会議
9月29日～10月3日	米国	石井澄江	女性指導者会議
10月5日～11日	タイ	石井澄江 塩田恭子	APA 会議
10月6日～12日	フィリピン	西田良子	厚労省研究委託「母子保健施策の指標作成に関する調査」
11月3日～4日	日本	石井澄江 矢口真琴	保健システム強化に向けたグローバル・アクションに関する国際会議
12月2日～7日	ベルギー、イタリア	石井澄江 矢口真琴	G8 サミットの成果と2009年G8の議長国であるイタリアの市民社会に引き継ぐための関係者との会合
12月14日～17日	タイ	西田良子	厚労省研究委託「母子保健施策の指標作成に関する調査」
2009年 1月12日～18日	フィリピン	西田良子	厚労省研究委託「母子保健施策の指標作成に関する調査」
1月24日～28日	英国	石井澄江	IPPF ドナー会議
2月8日～2月15日	イタリア	石井澄江	イタリア G8に向けた NGO 会合 グローバルヘルス・フォーラム
2月24日～27日	フィリピン	勝部まゆみ	Asian NGO Consultation(アジアの NGO による母子と新生児保健・予防接種推進に関する経験共有のための会議)に参加。
3月28日～4月5日	米国	塩田恭子	CPD(国連人口開発委員会)に参加

研修参加

期 間	場 所	派遣員	内 容
2008年 7月10日～11日	FASID	西田良子	社会調査手法研修「質的アプローチとその方法」
7月22日～24日	FASID	西田良子(基礎編・応用編) 佐藤幸子(基礎編)	「ODA 評価のための評価ワークショップーデータ分析のための統計手法」基礎編・応用編
11月14日～20日	インドネシア	塩田恭子	アドボカシー研修のため RH+ NGO 指導者研修ワークショップに参加
12月10日～12日	FASID	西田良子 腰原亮子	インパクト評価の理論と実践
2009年3月13日	FASID	西田良子	キャパシティ・ディベロップメントのメカニズムと能力プロファイリング

図 1

(参考資料)
インターネットメディア



元リンク (外部サイト) 順位表

	URL	サイト名
1	http://omoide-randoseru.com	思い出ランドセル
2	http://volunteer.yahoo.co.jp	ヤフーボランティア
3	http://www.ngo-arena.org/	NGO アリーナ
4	http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp	ヤフー知恵袋
5	http://mixi.jp	ミクシー
6	http://ameblo.jp	アメーバブログ (VIRINA 青木愛社長他、サポーターのブログ)
7	http://kenmogi.cocolog-nifty.com	茂木健一郎氏のブログ
8	http://gaialog.jp/tarte/	Tarte ブログ (ミッチ&ハッチのブログ)
9	http://ja.wikipedia.org	ウィキペディア
10	http://allabout.co.jp	オールアバウト (大葉ナナコさんのサイト)
11	http://joicfp-shop.com	ジョイセフ チャリティ・ショップ
12	http://2style.net	ボランティア紹介サイト
13	http://atelier-riko.littlestar.jp	手作り商品を取り扱うショップ
14	http://fmfukuoka.co.jp	FM 福岡
15	http://oneforall2008.jp	ワンフォーオールのサイト
16	http://metoo2008.jp	me too キャンペーンサイト

上の表は、ジョイセフのホームページに入る際にどこから来たかを示す「元リンク」の順位表である。外部サイトからのリンク数は、年々増えている中で、郡を抜いて1位を占めたのは、思い出のランドセルのサイト (5年連続1位) からの来訪者である。

また、太字で示した (5、6、7、8、10位) は、ブログや日記 (ミクシー) などの、個人のサイトである。今年は、ジョイセフのイベントに参加して以来、継続支援を行う大葉さん、VIRINA の青木さん、そしてイベントのトークショー出演の茂木さんらのサイトからの来訪者が目立った。つまり「ブログの読者をジョイセフの支援者に導く」という本来の目的が、成果として表れている。

庶務事項

1. 会議

(1) 理事会・評議員会合同会議の開催

第1回理事会・評議員会合同会議が、平成20年6月4日(水)ジョイセフセミナー室で開催され、提出された議案はすべて原案通り可決承認された。

第1号議案 平成19年度事業報告(案)並びに収支決算(案)承認の件・監査報告

(2) 理事会・評議員会合同会議の開催

第2回理事会・評議員会合同会議が、平成21年3月24日(火)ジョイセフセミナー室で開催され、提出された議案はすべて原案通り可決承認された。

第1号議案 平成21年度事業計画(案)並びに収支予算(案)承認の件